

經 濟 學 部

【経済学部経済学科科目一覧を見る時の注意事項】

科目一覧を見る前に必ず読んで下さい。

*1999年度以前入学の学生は科目名称が前年度までと変更になっているものがあるので、
新旧カリキュラム対照表をよく見ること。

2000年度以降入学の学生の指定年次に対応している。
1999年度以前入学の学生は、年次が違う科目があるので、
履修要項（別冊）、講義概要の年次欄を参照すること。

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
選択必修科目						
514	経済史入門A	春 学 期	2	2	櫻 井 健 吾	} 99 生以前は選択科目
514	経済史入門B	秋 学 期	2	2	川 崎 勝	

表内の**必修科目**、**選択必修科目**、**選択科目**、**自由科目**などの科目分類の表記は、
2000年度以降入学の学生に対応している。
1999年度以前入学の学生は、備考欄の科目
分類を参照すること。

1999年度以前入学の学生は、備考欄
の科目分類表記を参照して授業登録を
すること。

経済学部経済学科 科目一覧

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
必修科目						
51101	ミクロ経済学	春 学 期	4	2	山 田 正 次	
51102	ミクロ経済学	春 学 期	4	2	近 藤 仁	
51103	ミクロ経済学	春 学 期	4	1	上 田 薫	
51111	マクロ経済学	秋 学 期	4	2	花 井 敏	
51112	マクロ経済学	秋 学 期	4	2	荒 井 好 和	
51113	マクロ経済学	秋 学 期	4	1	吉 本 佳 生	
51121	データ処理入門 1	春 学 期	2	1	近 藤 仁	
51122	データ処理入門 2	春 学 期	2	1	近 藤 仁	
51123	データ処理入門 3	春 学 期	2	1	中 村 正 治	
51124	データ処理入門 4	春 学 期	2	1	伊 藤 暢 浩	
51125	データ処理入門 5	秋 学 期	2	1	近 藤 仁	
51126	データ処理入門 6	秋 学 期	2	1	近 藤 仁	
51127	データ処理入門 7	秋 学 期	2	1	中 村 正 治	
51128	データ処理入門 8	秋 学 期	2	1	伊 藤 暢 浩	
51131	経済学のための数学 1	春 学 期	2	1	春 藤 修 二	
51132	経済学のための数学 2	春 学 期	2	1	春 藤 修 二	
51133	経済学のための数学 3	秋 学 期	2	1	春 藤 修 二	
51134	経済学のための数学 4	秋 学 期	2	1	春 藤 修 二	
51141	経済演習 I	通 年	4	1	川 崎 勝	
51142	経済演習 I	通 年	4	1	野 村 信 廣	
51143	経済演習 I	通 年	4	1	水 谷 重 秋	
51144	経済演習 I	通 年	4	1	中 矢 俊 博	
51145	経済演習 I	通 年	4	1	上 田 薫	
51146	経済演習 I	通 年	4	1	林 尚 志	
51147	経済演習 I	通 年	4	1	吉 本 佳 生	
51148	経済演習 I	通 年	4	1	井 上 知 子	
51149	経済演習 I	通 年	4	1	宮 澤 和 俊	
51150	経済演習 I	通 年	4	1	近 藤 仁	

科目 コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
51161	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	櫻 井 健 吾	
51162	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	花 井 敏	
51163	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	村 松 久 良 光	
51164	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	荒 井 好 和	
51165	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	山 田 正 次	
51167	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	大 谷 津 晴 夫	
51168	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	F. Muncada	
51169	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	阪 本 俊 生	
51170	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	吉 本 佳 生	
51171	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	井 上 知 子	
51172	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	宮 澤 和 俊	
51181	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	川 崎 勝	
51182	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	野 村 信 廣	
51183	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	水 谷 重 秋	
51184	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	櫻 井 健 吾	
51185	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	花 井 敏	
51186	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	村 松 久 良 光	
51187	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	荒 井 好 和	
51188	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	山 田 正 次	
51189	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	中 矢 俊 博	
51190	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	近 藤 仁	
51191	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	大 谷 津 晴 夫	
51192	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	阪 本 俊 生	
51193	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	上 田 薫	
51194	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	加 藤 尚 史	
51195	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	林 尚 志	
51201	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	川 崎 勝	
51202	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	野 村 信 廣	
51203	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	水 谷 重 秋	
51204	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	櫻 井 健 吾	

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
51205	経済演習Ⅳ	通年	4	4	花井 敏	
51206	経済演習Ⅳ	通年	4	4	村松 久良光	
51207	経済演習Ⅳ	通年	4	4	荒井 好和	
51208	経済演習Ⅳ	通年	4	4	山田 正次	
51209	経済演習Ⅳ	通年	4	4	近藤 仁	
51210	経済演習Ⅳ	通年	4	4	大谷津 晴夫	
51211	経済演習Ⅳ	通年	4	4	阪本 俊生	
51212	経済演習Ⅳ	通年	4	4	上田 薫	
51213	経済演習Ⅳ	通年	4	4	加藤 尚史	
51214	経済演習Ⅳ	通年	4	4	林 尚志	
51215	経済演習Ⅳ	通年	4	4	吉本 佳生	
51216	経済演習Ⅳ	通年	4	4	中矢 俊博	
選択必修科目						
51401	現代経済入門 1	春学期	2	1～4	野村 信廣	99 生以前は選択科目
51402	現代経済入門 2	秋学期	2	1～4	野村 信廣	
51411	経済史入門 A	春学期	2	1～4	櫻井 健吾	
51421	経済史入門 B	秋学期	2	1～4	川崎 勝	
51431	経済思想入門	春学期	2	1～4	大谷津 晴夫	
51441	経済統計入門 1	春学期	2	1～4	荒深 美和子	
51442	経済統計入門 2	秋学期	2	1～4	荒深 美和子	
選択科目						
51601	経済英語Ⅰ 1	春学期	2	2～4	K. Easley	99 生以前は選択必修科目
51602	経済英語Ⅰ 2	春学期	2	2～4	P. Tanner	
51603	経済英語Ⅰ 3	春学期	2	2～4	W. Mansell	
51604	経済英語Ⅰ 4	春学期	2	2～4	F. Muncada	
51605	経済英語Ⅰ 5	秋学期	2	2～4	D. Potter	
51611	経済英語Ⅱ 1	秋学期	2	2～4	K. Easley	99 生以前は選択必修科目
51612	経済英語Ⅱ 2	秋学期	2	2～4	P. Tanner	
51613	経済英語Ⅱ 3	秋学期	2	2～4	W. Mansell	
51614	経済英語Ⅱ 4	秋学期	2	2～4	F. Muncada	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
51621	ビジネス英語Ⅰ 1	春 学 期	2	2~4	P. Tanner	99 生以前は選択必修科目
51622	ビジネス英語Ⅰ 2	春 学 期	2	2~4	K. Easley	
51623	ビジネス英語Ⅰ 3	春 学 期	2	2~4	W. Mansell	
51624	ビジネス英語Ⅰ 4	春 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
51625	ビジネス英語Ⅰ 5	秋 学 期	2	2~4	D. Potter	
51631	ビジネス英語Ⅱ 1	秋 学 期	2	2~4	P. Tanner	99 生以前は選択必修科目
51632	ビジネス英語Ⅱ 2	秋 学 期	2	2~4	K. Easley	
51633	ビジネス英語Ⅱ 3	秋 学 期	2	2~4	W. Mansell	
51634	ビジネス英語Ⅱ 4	秋 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
51641	時事英語Ⅰ	春 学 期	2	2~4	森 川 信 子	99 生以前は選択必修科目
51651	時事英語Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	森 川 信 子	99 生以前は選択必修科目
51661	外書講読（理論と情報）A	春 学 期	2	2~4	野 村 信 廣	99 生以前は選択必修科目
51662	外書講読（理論と情報）A	春 学 期	2	2~4	藪 内 繁 巳	
51663	外書講読（理論と情報）B	秋 学 期	2	2~4	野 村 信 廣	
51664	外書講読（理論と情報）B	秋 学 期	2	2~4	藪 内 繁 巳	
51665	外書講読（政策）A	春 学 期	2	2~4	水 谷 重 秋	
51666	外書講読（政策）A	春 学 期	2	2~4	大 谷 津 晴 夫	
51667	外書講読（政策）B	秋 学 期	2	2~4	水 谷 重 秋	
51668	外書講読（政策）B	秋 学 期	2	2~4	大 谷 津 晴 夫	
51671	外書講読（国際）A		2	2~4		本年度休講
51673	外書講読（国際）B		2	2~4		本年度休講
51675	外書講読（歴史と思想）A	春 学 期	2	2~4	櫻 井 健 吾	本年度休講
51677	外書講読（歴史と思想）B	秋 学 期	2	2~4	櫻 井 健 吾	
51681	計量経済学Ⅰ		2	2~4		本年度休講
51683	計量経済学Ⅱ		2	2~4		本年度休講
51685	経済統計論Ⅰ		2	2~4		本年度休講
51687	経済統計論Ⅱ		2	2~4		本年度休講
51691	理論経済学Ⅰ	春 学 期	2	2~4	井 上 知 子	本年度休講
51693	理論経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	井 上 知 子	
51695	情報経済学Ⅰ		2	2~4		

経済学部 経済学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
51697	情報経済学Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51701	データ解析Ⅰ	夏期集中	2	2～4	野 崎 浩 成	
51703	データ解析Ⅱ	夏期集中	2	2～4	野 崎 浩 成	
71733	オペレーションズ・リサーチA	春 学 期	2	2～4	石 崎 文 雄	
71735	オペレーションズ・リサーチB	秋 学 期	2	2～4	穴 太 克 則	
51711	特別テーマ講義（理論と情報）A	春 学 期	2	2～4	上 田 薫	
51713	特別テーマ講義（理論と情報）B	春 学 期	2	2～4	上 田 薫	
51715	経済政策論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	水 谷 重 秋	
51717	経済政策論Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	水 谷 重 秋	
51721	経済変動論Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51723	経済変動論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51725	日本経済論A	春 学 期	2	2～4	花 井 敏	
51727	日本経済論B	秋 学 期	2	2～4	花 井 敏	
51731	財政学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	石 田 昌 夫	
51733	財政学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	石 田 昌 夫	
51735	金融論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	荒 井 好 和	
51737	金融論Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	荒 井 好 和	
51741	労働経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	村 松 久 良 光	
51743	労働経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	村 松 久 良 光	
51745	公共経済学Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51747	公共経済学Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51751	産業組織論A		2	2～4		本年度休講
51753	産業組織論B		2	2～4		本年度休講
51755	社会保障論A	春 学 期	2	2～4	大 谷 津 晴 夫	
51757	社会保障論B	秋 学 期	2	2～4	大 谷 津 晴 夫	
51761	特別テーマ講義（政策）A		2	2～4		
51763	特別テーマ講義（政策）B		2	2～4		
51765	国際経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	山 田 正 次	
51767	国際経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	山 田 正 次	
51771	開発経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	林 尚 志	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
51773	開発経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	林 尚 志	
51775	国際金融論Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51777	国際金融論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51781	国際経済政策論Ⅰ	秋 学 期	2	2～4	D. Potter	
51783	国際経済政策論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51785	アジア経済論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	足 立 文 彦	
51787	アジア経済論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51791	アメリカ経済論Ⅰ	夏期集中	2	2～4	辻 正 次	
51793	アメリカ経済論Ⅱ	夏期集中	2	2～4	辻 正 次	
51795	特別テーマ講義（国際）A	秋 学 期	2	2～4	吉 本 佳 生	
51797	特別テーマ講義（国際）B	秋 学 期	2	2～4	吉 本 佳 生	
51801	西洋経済史A	秋 学 期	2	2～4	櫻 井 健 吾	
51803	西洋経済史B		2	2～4		本年度休講
51805	日本経済史Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51807	日本経済史Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51811	経済思想史Ⅰ	春 学 期	2	2～4	橋 本 昭 一	
51813	経済思想史Ⅱ	夏期集中	2	2～4	原 田 哲 史	
51815	経済倫理学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	橋 本 昭 一	
51817	経済倫理学Ⅱ	夏期集中	2	2～4	橋 本 昭 一	
51821	経済体制論Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51823	経済体制論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51825	経済学史Ⅰ	春 学 期	2	2～4	中 矢 俊 博	
51827	経済学史Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	中 矢 俊 博	
51831	消費社会論Ⅰ		2	2～4		本年度休講
51833	消費社会論Ⅱ		2	2～4		本年度休講
51835	特別テーマ講義（歴史と思想）A		2	2～4		本年度休講
51837	特別テーマ講義（歴史と思想）B		2	2～4		本年度休講
71473	会計原理Ⅰ 3（他学科用）	春 学 期	2	1～4	飯 田 穆	
71478	会計原理Ⅱ 3（他学科用）	秋 学 期	2	1～4	飯 田 穆	
71462	経営学総論A（全、営2年以上）	春 学 期	2	2～4	岸 田 民 樹	

経済学部 経済学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
71467	経営学総論B (全、営2年生以上)	秋 学 期	2	2~4	岸 田 民 樹	本年度休講 本年度休講
71601	経営組織論A	春 学 期	2	2~4	安 藤 史 江	
71603	経営組織論B	秋 学 期	2	2~4	安 藤 史 江	
71635	企業論A	春 学 期	2	2~4	石 黒 真 吾	
71637	企業論B	秋 学 期	2	2~4	石 黒 真 吾	
71546	経営財務論A	春 学 期	2	2~4	徳 永 俊 史	
71548	経営財務論B	秋 学 期	2	2~4	徳 永 俊 史	
71551	マーケティング論A	秋 学 期	2	2~4	中 田 善 啓	
71553	マーケティング論B	秋 学 期	2	2~4	中 田 善 啓	
71631	経営史A		2	2~4		
71633	経営史B		2	2~4		
71541	経営労務論A	春 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71543	経営労務論B	秋 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71791	現代産業論 (総合商社論)	春 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
71792	現代産業論 (総合商社論)	秋 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
71794	現代産業論 (都市銀行論)	春 学 期	2	2~4	高 木 夏 樹	
71795	現代産業論 (都市銀行論)	秋 学 期	2	2~4	高 木 夏 樹	
71797	現代産業論 (損害保険論)	春 学 期	2	2~4	清 登 緑 郎	
71798	現代産業論 (損害保険論)	秋 学 期	2	2~4	清 登 緑 郎	
71800	現代産業論 (電子・電機産業論)	春 学 期	2	2~4	三 田 良 治	
71801	現代産業論 (電子・電機産業論)	秋 学 期	2	2~4	三 田 良 治	
71803	現代産業論 (自動車産業論)	春 学 期	2	2~4	願 興 寺 胎 之	
71804	現代産業論 (自動車産業論)	秋 学 期	2	2~4	願 興 寺 胎 之	
51841	民法Ⅰ	春 学 期	2	2~4	松 倉 耕 作	
51845	民法Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	松 倉 耕 作	
51851	商法Ⅰ	春 学 期	2	2~4	田 中 裕 明	
51855	商法Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	田 中 裕 明	
51861	経済法Ⅰ	春 学 期	2	3~4	田 中 裕 明	
51865	経済法Ⅱ	秋 学 期	2	3~4	田 中 裕 明	
51871	労働法Ⅰ	春 学 期	2	3~4	唐 津 博	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
51875	労働法Ⅱ	秋 学 期	2	3~4	唐 津 博	本年度休講 本年度休講
51881	行政法Ⅰ	春 学 期	2	3~4	栗 本 雅 和	
51885	行政法Ⅱ	秋 学 期	2	3~4	栗 本 雅 和	
51891	職業指導A		2	3~4		
51895	職業指導B		2	3~4		
95～99年度に入学した学生対象の必修科目						
51901	経済入門Ⅰ 1	春 学 期	2	2	上 田 薫	
51902	経済入門Ⅰ 2	秋 学 期	2	2	吉 本 佳 生	
51911	経済入門Ⅱ 1	春 学 期	2	2	上 田 薫	
51912	経済入門Ⅱ 2	秋 学 期	2	2	吉 本 佳 生	

經 濟 学 部

【経済学部経済学科講義概要を見る時の注意事項】

講義概要を見る前に必ず読んで下さい。

*1999年度以前入学の学生は科目名称が前年度までと変更になっているものがあるので、
新旧カリキュラム対照表をよく見ること。

年次に「1」「1～4」とあるものは、2000年度以降入学の学生の指定年次に対応。それ以外（「2」以上の表記があるもの）は、1999年度以前入学の学生の指定年次に対応。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51401 51402	現代経済入門	選必	春学期 秋学期	各2	1	野村 信廣
他の科目 との関連						他学科履修 不可

年次欄に「1」「1～4」とある場合、2000年度以降入学の学生対象の科目分類を表記。それ以外（「2」以上の表記があるもの）は、1999年度以前入学の学生対象の科目分類を表記。

略語の正式名称は以下の通り。

必 → 必修科目
 選必 → 選択必修科目
 選 → 選択科目

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51101	ミクロ経済学	必	春学期	4	2	山 田 正 次
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 消費者（家計）や生産者（企業）の典型的行動を明らかにし、彼等の経済活動がモノやサービスの価格や数量を決めることになるメカニズムを講述する。

【講義計画】 以下の各章の順に講義する。
 第1章 需要と供給の分析
 第2章 家計の行動
 第3章 企業の行動
 第4章 完全競争市場と価格
 第5章 不完全競争

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 嶋村紘輝（著）『ミクロ経済学（第二版）』成文堂

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51102	ミクロ経済学	必	春学期	4	2	近 藤 仁
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 経済主体の行動と市場均衡分析

【講義内容】 ミクロ経済学は、経済活動を市場や経済主体の行動という観点から分析する経済学の基礎理論である。講義では、競争市場における価格決定機構の分析や、消費者・生産者という経済主体の行動の分析、また不完全競争市場についての基礎理論を講義する。

【講義計画】 (1) 資本主義経済と経済問題
 (2) 需要と供給、市場と市場均衡
 (3) 与件の変化と需要・供給曲線のシフト
 (4) 弾力性の概念
 (5) 消費者行動（効用極大化行動）
 (6) 財（要素）に関する需要（供給）曲線の導出
 (7) 生産者行動（利潤極大化行動）
 (8) 財（要素）に関する供給（需要）曲線の導出
 (9) 市場均衡の安定性
 (10) 不完全競争の市場
 (11) 独占企業の行動
 (12) 寡占市場における価格の下方硬直性
 なお、講義内容の理解を促進するために、講義において適宜、練習問題を課す。

【評価方法】 中間試験と定期試験で総合的に評価する。

【テキスト】 多和田・尾崎編著『経済学の基礎』中央経済社、1997年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51103	ミクロ経済学	必	春学期	4	1	上 田 薫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 ミクロ経済学は経済学の基礎理論の一つで、経済主体の合理的行動の想定の下で消費者・企業等の行動とその相互作用の帰結について分析しようとするものです。今年度は下記のテキストに沿って、基本となる考え方から紹介していく予定です。

【講義計画】

1. 戦略と均衡
2. 交渉ゲーム
3. 情報とゲーム
4. オークション
5. 公共財
6. 市場取引
7. 消費者理論
8. 寡占の理論

【評価方法】 中間試験と期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 梶井厚志・松井彰彦「ミクロ経済学」日本評論社

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51111	マクロ経済学	必	秋学期	4	2	花 井 敏
他の科目との関連						他学科履修 可

【副 題】 マクロ経済学の基礎

【講義内容】 マクロ経済学の基礎を講義する。

【講義計画】

1. マクロ経済学とは
2. 経済循環と国民所得勘定
3. 国民所得決定の理論
4. 消費関数
5. 投資関数
6. 貨幣と金融市場
7. IS-LM分析
8. 金融政策と財政政策
9. 総需要と総供給
10. 国際マクロ経済学

【評価方法】 中間テスト50点、期末テスト50点。

【テキスト】 小川一夫・他著『マクロ経済学』有斐閣、1991年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51112	マクロ経済学	必	秋学期	4	2	荒 井 好 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 マクロ経済学の基本概念と基礎理論を講義する。

【講義計画】 今年度はマンキュー（N. Gregory Mankiw）著「マクロ経済学」をテキストとして使用する。本書は、「長期分析から短期分析へ」という新しいアプローチを採用した最新のテキストである。翻訳も読みやすい。入門編と応用編の2冊からなるが、授業では入門編のみを使用する予定。ちなみに本書の目次を以下に再録しておく。なお、受講者は授業に先立って予習してくることが望ましい。

1. 科学としてのマクロ経済学
2. マクロ経済学のデータ
3. 国民所得：生産、分配、配分
4. 貨幣とインフレーション
5. 開放経済
6. 景気変動へのイントロダクション
7. 総需要Ⅰ
8. 総需要Ⅱ
9. 総供給
10. 短期の開放経済

【評価方法】 数回の宿題・レポート提出および2回の定期試験で評価する。11月中旬の授業時間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 N. グレゴリー・マンキュー著「マクロ経済学Ⅰ 入門編」東洋経済新報社 1996年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51113	マクロ経済学	必	秋学期	4	1	吉 本 佳 生
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 現実の経済問題について分析するための基礎理論を学びましょう。

【講義内容】 現実の経済ニュースを例にとりながら、マクロ経済学の基本概念と基礎理論を講義します。

- 【講義計画】
1. 基本の問題の提示
 2. インフレ
 3. 景気
 4. 貯蓄－投資バランス
 5. マクロ経済政策
 6. 通貨制度
 7. 予想とマクロ経済
 8. 演習（その1）
 9. 演習（その2）

【評価方法】 中間試験と期末試験の成績を合わせて評価します。

【テキスト】 吉本佳生著『ニュースと円相場から学ぶ使える経済学入門』（日本評論社、2000年、予定価格1600円+税）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51121) 51128	データ処理入門	必	春学期 秋学期	各2	1	近 藤 仁 中 村 正 治 伊 藤 暢 浩
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】 論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均・分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などを、パソコン統合ソフト「MS-OFFICE (WORD・EXCEL)」を用いて学習する。

【講義計画】 (1) 情報社会と情報倫理 (情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理)
(2) パソコン入門 (コンピュータ、オペレーティング・システム、ファイル管理等)
(3) ワープロ入門 (日本語入力・変換、第二水準文字、書式、レポートの書き方等)
(4) 経済データ入門 (経済データの種類と特性)
(5) 表計算入門1 (基礎：表作成と計算)
(6) 表計算入門2 (統計学入門：平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等に関する理論と組み込み関数の利用)
(7) 表計算入門3 (データ加工入門：変化率・成長率、指数・対数変換等)
(8) グラフ入門 (プレゼンテーション手法としての各種グラフ)
(9) 統合 (表・グラフの文書への取り込み)
により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。

【評価方法】 出席と3回のレポート提出 (文書作成、表計算とグラフ、最終レポート) により、総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じて、資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51131) 51134	経済学のための数学	必	春学期 秋学期	各2	1	春 藤 修 二
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 解析入門

【講義内容】 微分法および積分法を扱うが主として微分法 (その中でも1変数が中心)。

【講義計画】 次の内容について順次講義する。
1. 実数・関数・連続性
2. 関数の極限・微分係数
3. 導関数・微分法の諸公式
4. 平均値の定理とその応用
5. 微分積分学の基本定理
6. テイラーの定理・関数の展開
7. 2変数関数の微分法
8. 極値問題

【評価方法】 筆記試験により評価する。出席が反映される様、定期試験の出題には工夫したい。

【テキスト】 開講時に指示する。

【そ の 他】 最初のところから始めますのでこれ迄の数学学習経験の違いを各自考えて主体的に取組むことを期待します。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51141	経済演習 I	必	通年	4	1	川 崎 勝
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 近代日本経済史の基礎研究

【講義内容】 経済史に限らず歴史の研究には、史料の収集と解説、その分析が不可欠である。古い時代に作成された史料には、墨筆の草書体で書かれた文書・記録や版本として印刷されたもの、さらに絵画史料など幅が広い。しかも用語・文章などにも難解なものが多い。そこで、幕末のペリーによる黒船来航から明治維新を経て文明開化にいたる時期の錦絵・瓦版などの絵画史料を読み解くことから始めて、それと対応する最も基本となる文字史料を読んでいき、その時代の様相にせまっていきたい。

【講義計画】 <春学期> テキスト(1)と活字化されている文字史料(コピーを配布)を読みながら、それぞれの時期の経済、政治、社会、文化など、広い視野から研究していく。
<秋学期> テキスト(2)を輪読し、その研究成果は、どのような史料を使って、どのような分析によってできあがったかなどを考え、史料批判の仕方を学んでいく。
<ゼミの進め方>
1. テキストを各自にテーマごとに割り当てて、報告・討論する。
2. 報告者(テーマによって1～3名)がレジюме(絵の内容と文字史料の要旨と重要用語説明)を配布し、音読・内容説明をする。
3. 全員で質疑応答・討論する。
4. 報告者ではない学生も、毎時間レジюме(要旨・用語解説)を用意して時間終了後に提出する。
演習は学生が自主的に運営するものであるから、初回に一年間のすすめ方について、十分に討論してもらう。夏には合宿を行う。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言の内容と、毎時間ごとに提出するレジюме、およびゼミ活動への参加の状態。
2. 春学期・秋学期終了時に、指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 (1)小西四郎監修・黒船館編『図説・黒船の時代』河出書房新社、1995年
(2)春学期終了時に指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51142	経済演習 I	必	通年	4	1	野 村 信 廣
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 経済学のことよく分かる

【講義内容】 現在、世界や日本が抱えている重要な諸問題について、経済学を道具に考えていく。その過程で、新しい事実の発見に努める。

【講義計画】 テキストを各自が分担、レジюмеを作成、発表、討論する。学年末に研究成果を修了論文として提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 辻正次・八田英二著「What's 経済学」(有斐閣)

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51143	経済演習 I	必	通年	4	1	水 谷 重 秋
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 社会科学入門

【講義内容】 現代不況、財政危機、高齢者福祉・介護、地球環境、自動車公害、原子力発電、規制緩和、日本版ビッグバンなど、現代におけるさまざまな経済・社会問題のなかからいくつかの問題を選び、それらの原因と解決法を考える。

【講義計画】 上記のような経済問題ごとにグループを作り、グループ単位で研究する。研究したことをゼミで順番に報告して全員で議論する。学年末には個別に修了論文を作成する。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 全員に共通のテキストは用いない。ただし、日本語の作文技術と修了論文作成の技術を身につけるために、次の3冊をゼミ生必読文献とする：

- (1) 本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982年）
- (2) 本多勝一『実践・日本語の作文技術』（朝日文庫、1994年）
- (3) 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51144	経済演習 I	必	通年	4	1	中 矢 俊 博
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 基礎からステップ経済学

【講義内容】 今年は例年と少し異なり、わたしたちが学んでいる経済学というものを、実際に出題された公務員試験などの問題を解くことを通じて理解していこうと思います。

【講義計画】 以下の計画で演習を行います。各自は割り当てられた箇所のレジュメを作成（問題の回答）し、皆に分かりやすく説明（問題の解説）していきます。その後、司会者を通じて他の諸君との質疑応答（活発に議論）に入ります。ここではわたしのゼミに集まった諸君全員が完全に理解するまで議論していくことが大切でしょう。最後に、わたしが全体の総括をします。

【評価方法】 演習に出席することは当然のことです。その上で、レジュメの作成ならびに発表態度やレポートの提出・ゼミへの貢献度などを総合して評価します。

【テキスト】 八木尚志著『基礎からステップ経済学』（実務教育出版、1999年）
中矢俊博著『経済教育の大切さ』（近代文芸社：1999年）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51145	経済演習 I	必	通年	4	1	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 人事と組織の経済学

【講義内容】 ミクロ経済学の考え方が現実の企業組織の問題にどのように用いられるのかを、下記の教科書を用いて学

んでいく。

【講義計画】 2～3人のグループに分かれて、順番に教科書の各章をレポートして貰う。レポーター以外の人たちには、レポーターへの質問をしてもらい、同時にまた、私のほうからの質問に答えてもらう。

【評価方法】 授業中のレポート及び修了レポートによって評価する。

【テキスト】 エドワード ラジアア 「人事と組織の経済学」 日本経済新聞社 1998年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51146	経済演習 I	必	通年	4	1	林 尚 志
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 日本の経済援助のあり方を探る

【講義内容】 本演習では、近年、世界各国から大きな期待を寄せられている「日本の経済援助」の現状及び問題点を理解した後、より望ましい援助のあり方を求めて建設的、具体的な改革案を探っていく。その過程で、生きた経済学を学ぼうとする意欲を高めることを目的とする。

【講義計画】 [1] 前半は上記テキストを用いて、日本が発展途上国に対して行っている経済援助活動、とりわけODA（政府開発援助）について現状を学ぶ。3～4人の班ごとに各章を担当し、発表を行う。[2] 夏期休暇中には、日本の経済援助に関する文献リストの中から、自らが興味を持ったものを一冊選び、書評を作成する。[3] 後半は、班を再編成し、班全員の書評を出発点としながら、班別に「日本の経済援助体制の問題点および今後の改革案」をまとめて対抗討論会を行い、事前準備、討論論旨、チームワークの3点について優劣を競う。

【評価方法】 (1) 発表、質問等、演習中の参加姿勢、(2) 各係としてのゼミ活動への貢献、および、(3) 夏休みの書評、修了論文等の提出物に基づいて評価を行う。

【テキスト】 久保田 勇夫編『Q&A わかりやすいODA 新訂版』（新訂版、ぎょうせい、1998年）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51147	経済演習 I	必	通年	4	1	吉 本 佳 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 新聞・雑誌を読んで、現実の経済問題に興味をもちましょう。

【講義内容】 新聞・雑誌の経済記事を通じて、少しでも現実の経済問題に興味・関心をもってもらい、また、それを題材にいろいろと考えてもらうことが、この演習の目的です。

【講義計画】 授業の形式・題材については、学生と協議の上で決定しますが、基本的には、毎回、各学生に新聞・雑誌から経済記事を選んでもらい、それを題材に発表などをしてもらいます。また、その題材に関連した基礎理論について簡単に講義します。

【評価方法】 平常点で評価しますが、必要に応じて課題の提出を求めます。

【テキスト】 未定。必要があれば指定します。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51148	経済演習 I	必	通年	4	1	井上 知子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 はじめての経済学

【講義内容】 (1年次)の経済原論の受講と並行して、「経済学で扱う問題にはどのようなものがあるのか」そして「それらをどのように分析するのか」を、下記のテキストを使って学ぶ。そして、この過程において、文献の検索、及び経済学辞典の利用を習慣づける。さらに、修了論文の作成を通じて、ワープロソフトの利用、論文の書き方(スタイル)の習得等、諸手段を身につける。

【講義計画】 ・4月、5月は、論理(推論・判断)について学ぶ。この際レジュメ作成に関する見本を提示する。
・ゼミ生全員が各々テキストの一部分を担当し、発表する。

【評価方法】 本人の発表、他者の発表の際のコメント、書評、及び修了論文によって評価する。

【テキスト】 酒井泰弘「はじめての経済学」有斐閣ブックス

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51149	経済演習 I	必	通年	4	1	宮澤 和俊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 経済学とは何か

【講義内容】 報告、議論、修了論文作成を通して、経済学への理解を深める

【講義計画】 春学期：テキストの内容の報告と討論
報告担当者(個人あるいはグループ)は、報告資料(レジュメ)を作成し、報告する。問題点や疑問点に関して、ゼミ生全員で議論する。

秋学期：テーマ別にグループを作り、調査、報告をし、修了論文を作成する。

【評価方法】 出席は最低条件。評価は、報告、討論、修了論文等から総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51150	経済演習 I	必	通年	4	1	近藤 仁
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 身近な物価について考えてみよう。

【講義内容】 最近の物価の動向から、物価はどうして決まるか、なぜ日本は外国に比べてものが高いう内外価格差問題が生じるのか、またその解消のためにはどうすればよいのか、あるいは政府の物価安定策はどのようなものか等についての問題を、ミクロ経済学とその背景にある現実経済との関係から考察する。
また、EXCELを利用して、現実のデータを分析する手法を身につける予定である。

【講義計画】 春学期は、日本の物価問題を取り上げ、講義内容で述べた問題について議論することにより、現実の経

済がどのように動いているのかを理解する。数名ずつのグループに分け、報告分担を決める。グループで調査・研究したものを報告し、全体で議論し、各自の理解を深める。また、時事グループによる新聞記事の解説から、経済問題を認識する力を養う。

秋学期は、表計算ソフトEXCELを用いて、現実のデータを分析する基礎的手法を学習する予定である。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、報告内容・質疑応答、レポート提出あるいは演習における役割の遂行状態と、すべての経済演習Ⅰの共通課題となっている書評・修了論文により、総合的に評価する。

【テキスト】 経済企画庁物価局編 『物価レポート'99』、経済企画協会、1999年。
コンピュータ関係については、資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51161	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	櫻 井 健 吾
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 市場経済を考える。

【講義内容】 市場経済の有効性と限界について、歴史的で理論的な再検討を行う。特に今年は新自由主義者ハイエクに注目する。

【テキスト】 1) ハイエク「真の個人主義と偽りの個人主義」(1946年公表)『ハイエク全集第3巻』所収
2) それ以外のテキストは未定。ちなみに昨年は次の論文・書物を読んだ。
ケインズ「自由放任の終焉」(1926年公表)
伊藤元重『市場の法則』
竹中平蔵『21世紀型民富論』

【講義計画】 テキストの輪読。ゼミ生は分担箇所を発表。教室では、問題の提起、討論を中心とする。

【評価方法】 出席、発表、討論、レポート

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51162	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	花 井 敏
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 (経済) 問題の発見、分析、解決のグループ学習

【講義内容】 たとえば、「日本は学歴社会か」、「名古屋人はケチか」、「駐車違反問題にいかに対処するか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ガソリンの値段はなぜ横並びか」、といった具体的な(経済)問題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的なレポートに仕上げるか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】 まず春学期では、3、4人からなるグループを作り、私が与える(比較的やさしい)問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかに取り組みます。秋学期では、各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】 ゼミ出席、調査プロジェクトのできばえ、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51163	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	村松 久良光
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 労働経済学入門

【講義内容】 働く人々の賃金や雇用量という身近でしかも関心の高い問題を扱う。そのような問題に対して、ミクロ経済学の需要・供給分析がどのように応用されるのか。

また、日本に特有といわれている「年功賃金」や「終身雇用」、「企業別組合」など、労働に関わる雇用慣行はどのように分析されるのか。最近発展してきた「組織と人事の経済経済学」を取り入れ、やさしく説明している次のテキストに沿って、発表、質疑を通して理解を深めたい。

・テキスト：大竹文雄『労働経済学入門』（経済学入門シリーズ）

・その他に、テーマに応じて参考文献や資料、新聞記事などを参考にする。

【講義計画】 ・進め方：まず3、4人の班を構成する。班ごとに、下記に記したテキストの順序で内容について発表し、別の班が質問に回り、理解を深める。一巡した後は、班ごとに関心のあるテーマに関して最近の新聞記事や雑誌論文を選んで発表し、最後に個人ごとに修了論文にまとめる。

・テキストの目次

第1章 労働経済入門

第2章 労働市場をみる

第3章 労働供給とは

第4章 労働需要の決まり方

第5章 年功賃金制度

第6章 長期雇用制度

第7章 労働者のキャリアと昇進

第8章 労働組合の役割

第9章 様々な賃金格差

第10章 失業と労働市場

【評価方法】 ・評価：発表・討論への参加の積極性と書評、修了論文で行う。

【テキスト】 大竹文雄『労働経済学入門』（経済学入門シリーズ、日本経済新聞社、1998年4月、830円＋税）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51164	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	荒井 好和
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 「日本版ビッグ・バン」について考える

【講義内容】 「日本版ビッグ・バン」の狙い、影響、効果についてさまざまな観点から考える。さしあたり、新聞・雑誌等に掲載された「ビッグ・バン」に関する記事を取りあげ、それらを一つ一つ確実に理解することから始めたい。

記事の内容を理解するためには、当然のことながら、記事にでてくる述語、金融制度などについて知らなければならない。金融に関する知識の幅を広げなければならない。その意味で、この演習では「現実」を素材にして「新しい金融の仕組み」を理解することを意図している。

【評価方法】 (1) 2回無断欠席はF。
(2) 成績は、毎時間の報告内容、討議への参加度、学年末に提出するレポートなどで評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51165	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	山田 正次
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 日本の経済が国際経済の動きとどのようなかかわりをもっているのか考える。

【講義計画】 教科書として、伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社）を使用し、グループごとの発表と討論を行う。秋の合宿で、各自が国際経済に関連するテーマを選んで報告し、学年末にそのレポートを提出する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、夏休み明けの書評、そして学年末のレポート等から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51167	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	大谷津 晴夫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 医療保障の経済学

【講義内容】 日本の医療保障制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、テキストの輪読と討論を中心に進める。年度末の演習の終了時にはレポートを提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 池上直己他『日本の医療』中公新書

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51168	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	F. Muncada
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 国際結婚

【講義内容】 毎年、何千人の日本人が外国人と結婚しています。彼らがだれと結婚していますか？国際結婚と一般の結婚にどんな問題が出てきますか。この演習に英語と日本語のテキストを使って進めたいと思います。

【講義計画】 二人か二人で一つのグループを作る。各グループは、与えた結婚や国際結婚の論文を要約して発表する。発表はワープロで打ったレジュメを用意してもらいます。春学期；一般結婚の色々な問題を取り上げます。秋学期；日本における国際結婚の具体的なやり方を取り上げます。国際結婚についての討論とアンケートもやります。

【評価方法】 出席状態、作業状態、発表、討論、終了論文。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51169	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	阪 本 俊 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 消費社会を考える

【講義内容】 消費社会論に関する、近年の様々な論文を輪読する。論文は日本語または英語のものとなる。

【講義計画】 4 から 5 人の班に分かれて、それぞれ関心のある論文を分担し、それについて発表する。一回の演習において、一つの班が発表し、それについて質疑応答を行なったあと、ディスカッションする。

【評価方法】 出席状況、ゼミ参加の積極性、レポート。

【テキスト】 演習内で指示する。

【そ の 他】 なし。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51170	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	吉 本 佳 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 新聞・雑誌を読んで、現実の経済問題に対する興味を深めましょう。

【講義内容】 新聞・雑誌を読んで、現実の経済現象や経済問題についての興味、関心を深めてもらうこと、また、それを題材に自分なりに考えてもらうことが、この演習の目的です。

【講義計画】 基本的には、毎回、各学生に新聞・雑誌から経済記事を選んでもらい、事前に提出してもらいます。その中からいくつかの記事を教員が選択し、それらの記事については、選択した学生に発表してもらい、それに関連した解説を教員がつけ加えます。

【評価方法】 平常点を中心に評価します。

【テキスト】 なし。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51171	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	井 上 知 子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 経済学を学ぶ上で必要と思われる数学的基礎を学ぶ

【講義内容】 「最適化問題」を中心に、経済学を学ぶ上で必要と思われる数学的基礎を学ぶ。そして、分析手法だけでなく、物事を論理的に考えるトレーニングを行う。なお、主要な参考文献として、稲田猷一「経済数学の手ほどき」日経文庫を挙げる。

【講義計画】 4 月、5 月は論理（推論・判断）について学ぶ。この際、レジュメ作成に関する見本を提示する。ゼミ生全員が各々配布プリントの一部分を担当し、発表する。

【評価方法】 本人の発表、他者の発表の際のコメント、書評、及び、修了論文によって評価する。

【テキスト】 必要に応じて、こちらでプリントを用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51172	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	宮澤 和俊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 公共経済学とは何か

【講義内容】 テキストの内容の報告および議論を通して、公共経済学とは何かを学ぶ。

【講義計画】 報告担当者（個人あるいはグループ）は、報告資料（レジュメ）を作成し、報告する。問題点や疑問点に関して、ゼミ生全員で議論する。
また、テーマを決めて、何回か討論会を行う。

【評価方法】 出席は最低条件。評価は、報告、討論、レポート等から総合的に判断する。

【テキスト】 奥野信宏「公共経済学」（岩波書店）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51181	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	川 崎 勝
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 経済学は現在の時点で生起している経済の動向を分析する学問である。経済史は、過去の時点で生起した事象を、その時点の資料にもとづいて分析するもので、経済学と歴史学の中間、あるいはその双方にまたがった学問といえる。過去の事柄＝歴史を研究することは、歴史学の手法に依拠しなければならず、それは、資料（文献、統計、文書、記録など）にもとづいて、その時代に起こった事柄を再構築することにある。そのためには、資料を正確に読みとり、それが書かれた背景を探り、何のために書かれたものか、またそれは何を意味しているのか、などについて考えていくことになる。

経済演習Ⅲでは、まず、1850年代のはじめ、ペリー来航の前夜から、明治維新、自由民権運動を経て、日本に資本主義が確立していく時代を概観し（春学期）、ついで、その時期に書かれた資料を読み解いていく（秋学期）ことを通して、経済史（歴史）の勉強の仕方を身につけていくことを課題とする。

それと同時に、2000年度に継続される経済演習Ⅳでの卒業論文のテーマをできるだけ早く（夏休中に）決める。

【講義計画】

1. 初回に、テキストの1～2項を、報告者（3名1グループ）に割り当てる。
2. 討論資料となるレジュメを配布する。資料の要約、内容の紹介、背景の解説、意義の説明を行ない、問題点を指摘して、討論する。
3. 討論は、まずコメンテーター（次回の報告者3名のグループ）が、全体にわたる質問をし、報告者の問題点に考えを述べる。
4. 次に、全員で、質疑応答・討論をする（時間内に必ず1回以上の発言を義務づける）。
5. 司会進行は、運営委員の指示によって進める。
6. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメを用意して、討論での問題点をメモし、時間の最後に運営委員に提出する。レジュメの提出で出席とみなす。
7. 演習は、学生生活の中心であるから、すべてに最優先され、やむを得ない場合を除き欠席は認めない。
8. 演習は、学生が自主的に運営するものであるから、初回に各委員を選出し、1年間の進め方（ゼミ運営、サブゼミ、合宿、レクリエーション、コンパ、その他）について、十分に討論してもらう。

【評価方法】

1. 演習での報告・発言・レジュメの内容。
2. 春学期・秋学期終了時に指示する課題についてのレポート。

- 【テキスト】 (1) 杉山伸也『明治維新とイギリス商人』〈岩波新書〉岩波書店、1994年（予定）
 (2) 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会、1979年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51182	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	野 村 信 廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 日本経済をよく観察しよう

【講義内容】 日々、生起する日本経済の重要問題を考え、具体的、計量的に把握していく。その後、各自関心あるテーマ（身近な問題も大歓迎）について、どう考え（理論構成）、どう作業（統計知識と分析道具）、どうまとめる（構想力と表現力）かを勉強していく。

【講義計画】 各自が課題を決めて研究、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に修了論文（卒業論文の中間報告に相当）を提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 新聞、雑誌記事などカレント・トピックスをベースに進める。その手初めに小峰隆夫著『最新・日本経済入門』（日本評論社）を輪読する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51183	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	水 谷 重 秋
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 環境経済学

【講義内容】 長良川河口堰に象徴されるダムと環境破壊の問題、自動車公害、ゴミ問題、原発と環境破壊の問題など、いま日本の各地で起こっている具体的な環境問題を取り上げて、その原因と対策を考える。

【講義計画】 (1)数個のグループを作り、各グループごとに課題を決めて研究する。研究の結果はゼミで報告して、全員で討論する。(2)学年末にグループごとに修了論文を提出する。(3)春と夏に2泊3日の合宿を行う（春は新3、4年合同合宿）。(4)神戸大学と交歓討論会を行う。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 ゼミ共通のテキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51184	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 以下のテキストの輪読。ゼミ生は分担箇所を発表。教室では、問題の提起、討論を中心とする。

【テキスト】 未定（ちなみに、1999年度は次の3冊を用いた）

- 1) 春学期：ウォーラーステイン『近代経済システム（1740-1820年）：大西洋革命の時代』名古屋大学出版会、1997年
 2) 秋学期：川勝平太『近代はアジアの海から』NHK出版、1999年
 村上泰亮『文明の多系史観：世界史再解釈の試み』中公叢書、1998年

【評価方法】 出席、発表、討論、レポート

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51185	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	花 井 敏
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 日本経済のグループ学習

【講義内容】 本ゼミナールでは、実際の経済問題に取り組みながら、日本経済に関する「問題発見」、「問題分析」、「問題解決」のテクニックをグループ学習します。

たとえば、「体育会系クラブは就職に有利か」、「銀行の給料はなぜ高いのか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ポイント・カードは何のため?」、といった具体的な（経済）問題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的な成果にまで到達するか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】 まず春学期では、3、4人からなるグループを作り、私が与える（比較的やさしい）問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかにゆっくりと取り組みます。夏休みの合宿で各グループの成果を報告し合い、レポートにまとめます。

秋学期にはグループの編成替えを行ったうえで、各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】 ゼミ出席、調査プロジェクトの成績、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51186	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	村松 久良光
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 仕事の経済学—情報化に伴う働き方の変化

【講義内容】 最近急速に進んできた情報化技術、特に、ネットワーク技術の進展によって、事務・技術職の働き方と意識がどのように変わっていくのか、このテーマを題材にして、現代における仕事のあり方を考えていきたい。演習では、クロス集計などをコンピュータで行う手法を学びながら、このようなテーマで行われたアンケートデータを材料にして分析し、修了論文にまとめていく。

【講義計画】 ・春学期は、パソコンの使い方を復習し、SPSSXのプログラムを習い、主にクロス集計表の作成を学ぶ。
 秋学期は、ゼミ生へのアンケートを使いアンケート質問紙にしたがってテーマを設定し、修了論文を作成する。
 ・3年の夏に2泊3日で合宿を行う。
 ・4年生の卒業論文のテーマには、海外のある国の労働事情を調べることを勧めている。4年生になる前の春の合宿でそのテーマの決定を行う。
 ・ゼミ生は「労働経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。

【評価方法】 ゼミへの参加度と発表、レポートの提出、修了論文で行う。

【テキスト】 『棟利用の手引き』、『新版SPSSX I 基礎編』（図書館の本を利用）
 中部産業・労働政策研究会『情報化技術革新による事務・技術職の働き方の変質と労使の対応』（中部産

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51187	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	荒井 好和
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 金融論

【講義内容】 この演習の柱の一つは毎年秋(12月中旬)におこなわれる他大学との交換討論会である。討論会ではそれぞれの大学が自由に決めたテーマを複数用意し、それぞれの報告内容について議論がおこなわれる。

討論会に向けて、春学期ではまず、学生諸君に金融の領域で現実は何が起こっているのかを知ってもらうために、日本の金融システムの変化に関する書物・論文・資料を取り上げ、金融に対する関心を高めたい。これはいわば導入部である。ついで、やや理論的な書物を用いて、金融の諸問題を扱うための道具の修得をめざしたい。秋学期では、これらの準備のもとに討論会のためのテーマを選定し、論文に仕上げる。

【講義計画】 春学期：
今年度は、現在進行しつつある金融ビッグ・バンを糸口として日本の金融システムの特徴を理解しながら、わが国の金融行政の歴史とその評価を考えてみたい。
必要に応じてジャーナルの論文を適宜使用する。

秋学期：
夏期休暇前に討論会のためのテーマを決め、休暇中に討論に向けた準備をする。後期は4年生を交えて発表を繰り返し、レジュメ、論文を作成する。

【評価方法】 ゼミでの報告、発言、討論会のための論文作成などで評価。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51188	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	山田 正次
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 国際経済学の分野で、貿易収支および経常収支不均衡の問題を検討する。

【講義計画】 テキストに従い、グループごとの発表と討議を行う。ゼミは週二回で、ゼミ生の関心に従って国際経済のカレントトピックスをも議論する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、そして学年末のレポート等から総合評価する。

【テキスト】 クルグマン・オブズフェルド(著)石井その他(訳)『国際経済Ⅱ・国際マクロ経済学』(新世社)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51189	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	中矢 俊博
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ケインズ経済学入門

【講義内容】 諸君らは当然認識しているでしょうが、われわれの住んでいる社会は資本主義社会であって、共産主義社会ではありません。ですから、自己責任の原則に基づく自由競争市場経済が原則となっています。ところが、政府の役割(安全な社会の建設、社会福祉の充実、法制度の整備等々)が非常に期待されている社

会もあります。政府の「やるべきこと」をはっきりと認識し、理論づけ、政策提言を行なった人が、わたしの関心をつよく引いているケインズという経済学者です。このゼミでは、ケインズの行った仕事を様々な角度から分析していこうと考えています。

【講義計画】

以下の計画で演習を行います。

春学期では下記のテキスト『ケインズ経済学入門』を用いて、彼の思想やその思想を形成するのに力を及ぼした環境について研究します。また、夏期合宿では、このところ毎年、諸君等が知っていなければならない経済常識について、ゼミ生どうしで確認する作業を行っています（来年は、私が作った本も読んでみようと考えています）。そして、秋学期ではそれらの知識をもとにして、ケインズの名著『一般理論』を検討していく予定です。

【評価方法】

レジュメの作成ならびに発表態度やレポートの提出・ゼミへの貢献度などを総合して評価します。

【テキスト】

ブローグ著・中矢訳『ケインズ経済学入門』（東洋経済新報社）
朝香豊著『経済のことがよくわかる事典』（西東社）
中矢俊博著『経済教育の大切さ』（近代文芸社）
ケインズ著・塩野谷訳『雇用・利子および貨幣の一般理論』（東洋経済新報社）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51190	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	近 藤 仁
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】

計量経済分析の基礎と実証的研究

【講義内容】

現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。計量経済学の手法は、経済予測、経済構造の比較、政策提言などによく利用され、「経済白書」の分析にも多用されている。演習では、春学期に計量モデルの特性や経済データの基礎、および計量経済分析の基礎的理論を修得し、秋学期には計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP(Time Series Processor)」を利用した小グループによる実証分析を通して、分析結果の評価方法や実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】

- (1) 経済データ種類と特性およびデータの加工
- (2) 計量経済モデル
- (3) 最小二乗推定法
 - ・最小二乗推定量とその統計的特性
 - ・推定結果の評価（説明力、有意性検定、自己相関の有無等）
- (4) 推定手法の拡張
 - ・多重共線性・ダミー変数・構造変化
 - ・一般化最小二乗法の利用、
 - ・予測とシミュレーション

等について、発表と質疑応答の形式により学習する。

また、グループによる実証研究は授業と並列して行うことになり、その研究成果は『南山学生論集』へ投稿する。

【評価方法】

出席は言うにおよばず、実証研究における貢献度と試験で総合的に評価する。

【テキスト】

山本 拓著 『計量経済学』（新数学ライブラリ12）、新世社、1995年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51191	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	大谷津 晴夫
他の科目との関連	社会保障論A・B、公共経済学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障法、労働法、財政学Ⅰ・Ⅱ					他学科履修 不可

【副 題】

社会保障の経済学

- 【講義内容】 経済学の視点から日本の社会保障の現状と問題点を探る。
- 【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、討議を中心に進める。年度末には終了論文を提出してもらう。
- 【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。
- 【テキスト】 小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51192	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	阪 本 俊 生
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

- 【副 題】 消費理論の基礎を学ぶ
- 【講義内容】 消費社会における諸現象を考察するための基礎的な理論を学習する。ボードリヤール等の社会学理論をゼミナール形式で読むことで、記号論的な視角から経済現象をとらえるやり方を学ぶ。この学習を通じて、抽象的で理論的な著作の読解を練習するとともに、流行や広告、大量消費、操作された欲望など消費社会における諸現象を探究し、明らかにするための基本的な視座の習得を目指す。
- 【講義計画】 4名から5名の小グループにわけ、グループ毎にテキストに関する発表を毎回行なってもらふ。レポートは年に4回提出。
- 【評価方法】 出席、報告、研究レポートから評価する。
- 【テキスト】 J. ボードリヤール『消費社会の神話と構造』、紀伊国屋書店

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51193	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

- 【副 題】 公共問題の経済分析
- 【講義内容】 最近の公共問題の幾つかを取り上げ、これらを論じるための、経済理論を含む基本知識を学ぶ。
- 【講義計画】 具体的にどのような問題を取り上げるかは演習に関する質疑応答の際に述べる（社会保障制度、税制、非営利団体、環境、及びこれら全体と関わる政治プロセスなどの問題などを予定している）。2～3人のグループに分かれて、これらの内のいずれかを選んでもらい、指定された文献のレポートを行っていく。秋からは、各自が興味を抱いたテーマを選び、修了レポートを作成してもらう。
- 【評価方法】 グループによるレポート及び修了レポートによって評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51194	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	加 藤 尚 史
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

- 【副 題】 応用経済学

【講義内容】 都市や地域、環境にかかわる問題を取り上げて、経済分析を加える。演習Ⅲにおいては、方法論を学ぶ。特に計量的な手法の習得を目指す。演習Ⅳでは、課題を選択したうえで研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。

【講義計画】 テキストの内容に関して、担当者が報告し、全員で議論することにした。

【評価方法】 演習への参加の状況などによって評価する。

【テキスト】 以下の文献のうちの「いくつか」を利用する「予定である」。

Damodar Gujarati (1999). *Essentials of Econometrics* (2nd ed.), Irwin/McGraw-Hill.
 Arthur S. Goldberger (1998). *Introductory Econometrics*, Harvard University Press.
 Thad W. Mirer (1995). *Economic Statistics and Econometrics* (3rd ed.), Prentice-Hall, Inc..
 養谷千風彦・平田英明・斎藤崇・大津泰介 (1997). 『パソコンによる数量分析』多賀出版。
 縄田和満 (1997). 『TSPによる計量経済分析入門』朝倉書店。
 中村良平・田淵隆俊 (1996). 『都市と地域の経済学』有斐閣。
 植田和弘・岡敏弘・新澤秀則〔編〕(1997). 『環境政策の経済学』日本評論社。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51195	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	林 尚 志
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 東アジア経済の“奇跡”と“危機”の真相を探る

【講義内容】 近年、韓国、タイ、マレーシア等をはじめとする東アジア諸国は日本経済との関係を深めながら「東アジアの奇跡」と呼ばれるめざましい経済発展を遂げたが、97年7月にタイで発生した通貨危機を発端とする「アジア通貨・経済危機」を経験し、現在、これら各国は危機からの再生に向けてさまざまな取り組みを行っている。

本演習Ⅲでは、「開発経済学」において議論されている種々のトピックを学びながら、(1) 東アジア諸国は“奇跡”と“危機”の両者の経験を通じて一体何を学んだのか、(2) 危機からの再生に向けて現在どのような取り組みが行われているのか、(3) 21世紀に向けて一層の発展を遂げる上で、どのような課題を乗り越える必要があるのか、等の疑問を探る。

【講義計画】 (0) 事前レポート： NHK市民大学での著者の講義をまとめた渡辺 (1989) を読み、東アジア経済が発展を遂げる上での背景、並びに発展の基本的なメカニズムを理解する。

(1) 基礎編： 大野・桜井 (1997) を読み、開発経済学で議論されている種々のトピックを学びながら、近年遂げられてきた“東アジアの奇跡”がもつさまざまな側面をとらえる。

(2) 応用編： 諸文献、新聞、雑誌等を活用し、アジア経済に関して各自が興味のあるトピックをより深く学んでいく。グループ研究や班内・全体討論会を通じて、活発な議論が行われることを目指す。

【評価方法】 (1) 出席を重視し、(2) 発表、質問等、演習への参加姿勢、(3) 適宜行われる小テスト、ならびに、(4) 各係としてのゼミ活動への貢献度に基づいて評価を行う。

【テキスト】 (1) 渡辺利夫著、「アジア経済をどう捉えるか」 NHKブックス568、日本放送出版協会、1989年、800円。

(2) 大野健一、桜井宏二郎著、「東アジアの開発経済学」 有斐閣アルマ、有斐閣、1997年、2000円。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51201	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	川 崎 勝
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 日本経済史の研究

- 【講義内容】 春学期は、演習Ⅲの継続として、明治前期の歴史の主要なテーマについて、テキストを読んでいく。同時に、適宜、卒業論文のテーマについて中間報告を求め、論文作成の指導を行う。
秋学期は、卒業論文のテーマの報告を中心とし、あわせて自由課題について討議研究する。
- 【評価方法】 演習での報告・発言・レジュメの内容、春学期・秋学期終了時に指示する課題のレポート、卒業論文、出席状況を総合的に評価する。
- 【テキスト】 歴史学研究会編『日本史史料〔4〕近代』岩波書店、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51202	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	野村 信廣
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

- 【副 題】 経済統計で考える日本と世界の経済
- 【講義内容】 各自の強い関心のあるテーマに関して、経済統計をツールにして卒業論文を指導、完成させていく。
- 【講義計画】 各自の研究作業結果の発表を基礎に、全員で討議する。各自はその結果を参考に研究作業を深めていくと同時に、討議に参加することで、同時代の仲間の関心事や経済の重要課題に関する知識を広めていく。
- 【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および卒業論文の成果等を勘案し、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51203	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	水谷 重秋
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

- 【副 題】 経済政策論
- 【講義内容】 卒業論文作成の個別指導：毎週のゼミの時間と個別指導を通じて各自の卒業論文を完成させる。
- 【講義計画】 毎週2人ずつ卒業論文の経過を報告し、ゼミ生からの質問や意見に答えつつ論文を完成させていく。
- 【評価方法】 ゼミナールでの活動状況や卒業論文の出来具合を見て総合的に判断する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51204	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	櫻井 健吾
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

- 【副 題】 ヨーロッパ経済史
- 【講義内容】 卒論発表

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51205	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	花 井 敏
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 卒論作成の指導

【講義内容】 卒業論文作成の個人指導。

【講義計画】 春学期は卒業論文のテーマ選びに充てる。
秋学期はテーマに沿った文献探索、資料集め、論文作成を指導する。

【評価方法】 卒業論文のできばえを評価。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51206	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	村松 久良光
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 仕事の経済学、各国の労働事情

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 卒業論文

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51207	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	荒 井 好 和
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 金融・国際金融論

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行なう。

【評価方法】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51208	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	山 田 正 次
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 国際経済の分野で各自の選んだテーマに従って、順次、報告と討議を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 普段の発表と卒業論文等から評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51209	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	近 藤 仁
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 計量経済分析の実際と応用

【講義内容】 3年次で学習した計量モデルの分析手法を、卒業論文で実証研究として実際に取り入れる場合の、データの収集や加工に関する問題点、モデル・ビルディングにおける問題点等について解決方法を考えるとともに、より高度な推定手法についても学習し、充実した卒業論文となるように指導する。

【講義計画】 個人の研究発表を基礎に、モデルやデータ、推定結果における問題点や解決方法について全員で討議する。その結果を受けて、実証研究における知識の充実を図るとともに、現実に対応できるように具体的なモデル推定改良手法やより高度な推定方法を学習し、卒業論文への応用について指導する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、研究発表と議論への参加度・貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓著 『計量経済学』（新数学ライブラリ12）、新世社、1995年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51210	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	大谷津 晴夫
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 春学期は特定のテキストを輪読し、秋学期は卒論の発表にあてる。

【評価方法】 出席、発表、卒論を総合的に評価して、成績をつける。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51211	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	阪 本 俊 生
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 消費社会の実態の解明

【講義内容】 経済演習Ⅲにおいて習得した理論を用いて、現代の日本における消費に関連する現象を学生各自の問題関心や視点から分析あるいは調査を行う。
その結果を卒業論文としてまとめる。

【講義計画】 春学期の前半は、卒業論文のテーマ、計画の作成、およびテーマへのアプローチの仕方や調査方法などを指導する。
春学期の後半から卒論の作成に取りかかり、各自の研究の計画発表を行う。
秋学期は、その経過報告およびその吟味と指導をおこなう。

【評価方法】 卒業論文

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51212	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	上 田 薫
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 前年度に各自でまとめた研究内容をもとに、研究及び論文作成の指導を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51213	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	加 藤 尚 史
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 応用経済学

【講義内容】 演習Ⅳでは、課題を選択したうえで、演習Ⅲにおいて習得した計量的な手法を用いつつ研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。

【講義計画】 研究の内容に関する報告を受けて、全員で議論することにした。

【評価方法】 卒業論文の内容や演習への参加の状況などによって評価する。

【テキスト】 研究テーマに応じて適時選ぶこととする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51214	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	林 尚 志
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 開発経済学とアジアの経済発展

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究および卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51215	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	吉 本 佳 生
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 パソコンを活用して、為替レート・金利・景気の動向を分析しましょう。

【講義内容】 経済演習Ⅲの内容を基礎としながら、各自が設定したテーマについて研究・発表してもらいます。

【講義計画】 春学期には、各自の研究テーマと分析の枠組について発表してもらい、秋学期には、それぞれのテーマ

の研究をすすめて完成させてもらいます。

【評価方法】 平常点と卒業論文の内容で評価します。

【テキスト】 なし。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51216	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	中 矢 俊 博
他の科目 との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科 履 修 不可

【講義内容】 各自の選定したテーマに従い、卒業論文を完成させることが、本演習の課題である。

【講義計画】 毎週3人ずつ卒論の経過報告を行い、他のゼミ生からの質問等に答える。それをもとに卒論を完成していく。

【評価方法】 報告内容と卒論の出来具合で総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51401 51402	現代経済入門	選必	春学期 秋学期	各2	1	野 村 信 廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 現代日本経済の姿を理解する

【講義内容】 現代日本経済がどのような経路を辿り、現在のようなシステムを作り、そのシステムがいかに機能しているか、問題点がどのように発生してきたかなどを学ぶ。

【講義計画】 テキストをまず理解することからスタートし、必要に応じて関連の資料を用意して、理解をさらに深める。それと同時に学生達にカレント・トピックスに関してコメントさせたりアンケート調査を実施して、経済や経済学を身近なものとしてもらう。

【評価方法】 期末の筆記テスト、コメント、アンケート調査などの参加度、出席状況などを加味して総合的に評価する。

【テキスト】 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭著「現代日本経済」(有斐閣)

【そ の 他】 無し

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51411	経済史入門A	選必	春学期	2	1～4	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 第1編 近代経済史研究への序説

第1章 産業革命の人類史的位置：

C. M. チボラの「人類史における二つの革命」論を中心として

第2章 概念上の諸問題：

(1) 経済成長、(2) 工業化、(3) 資本主義、(4) 産業革命

第3章 産業革命の研究史：悲観論と楽観論

第4章 W. W. ロストウの「離陸」論：

- 『経済成長の諸段階』（1960年、増補版1971年）
 第5章 A. ガーシェンクロンの「比較後進性」の仮説：
 『歴史的展望の中での比較後進性』（1962年）
 第2編 人工と工業化
 第1章 前工業化時代の人口（800-1800年）：
 「マルサスの悪循環」の世界
 第2章 工業化時代の人口（1750-1914年）：
 「マルサスの悪循環」の克服と「人口爆発」
 第3章 ドイツの過剰人口、窮乏化問題、工業化（1800-1850年）：
 過渡期の人口と経済
 第4章 ドイツの工業化、国内人口移動、都市化（1850-1914年）：
 「水平的・垂直的流動性」
 第5章 人口転換（1800-1980年）：
 「農業の人口様式」から「工業の人口様式」へ

【評価方法】 定期試験（80点）、出席（20点）

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51421	経済史入門B	選必	秋学期	2	1～4	川 崎 勝
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 日本における「経済社会」成立の前提

【講義内容】 日本で現在につながる「経済社会」が成立したのは江戸時代だといわれているが、それは一挙にそうなったわけではなく、それまでに十分な準備段階があった。今年度は、日本列島に展開された諸々の生業の営みを歴史的に把え、「経済社会」が成立するにいたる前提条件を考察し、「経済史」とはどういう学問かを問うことにする。

【講義計画】 原始時代から江戸時代初頭までの時期を対象とし、原始社会の多様性、日本列島と民族、漁撈・狩猟・農耕の展開、土地に密着した租税体系、商品流通と人々の移動、東アジア世界との交流などについて、経済生活を軸にして、政治・文化と関連づけながら講義する。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 網野喜彦『日本社会の歴史』上・中・下〈岩波新書・新赤版 500-502〉岩波書店、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51431	経済思想入門	選必	春学期	2	1～4	大谷津 晴夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 市場と貨幣の経済思想

【講義内容】 講義の主要項目は以下の通り。

1. 社会の文化と市場の成立
2. 市場の秩序
3. 道徳経済と市場経済
4. 政治と経済
5. 公正と均衡
6. 市場の失敗
7. 市場と組織
8. 非市場社会

9. 市場社会と貨幣
10. コミュニケーションと貨幣
11. 貨幣の経済機能
12. インフレーションとデフレーション

【評価方法】 定期試験と随時行う小テストの成績に従って評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51441 51442	経済統計入門	選必	春学期 秋学期	各2	1～4	荒深 美和子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 (経済) データの分析

【講義内容】 統計学は、実際のデータを分析して、データの特徴を整理・要約したり、データが生成された元々の集団については推測する方法を学ぶ学問である。

本講義では、(経済) データに現れた特徴や各データ間の関係などを整理・要約し記述する方法(記述統計学)を学ぶ。1年次の「データ処理入門」で学んだ表計算ソフトExcelを使って演習や宿題を行う。

- 【講義計画】
- (1) 代表値
 - (2) 度数分布
 - (3) 分散、標準偏差
 - (4) 検定
 - (5) 相関と回帰

【評価方法】 各課題のレポート、期末テスト

【テキスト】 講義時に適宜資料を配布

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51601 51611	経済英語 I ・ II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	K. Easley
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 ECONOMIC DEVELOPMENTS IN THE WORLD

【講義内容】 A survey of developments in major world economies (especially Japan),
Different kinds of capitalism will be identified and examined historically, and their relationship to the cultural values of particular countries will be explored a little.

【テキスト】 No set text. Video and handouts will be used.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51602 51612	経済英語 I ・ II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	P. Tanner
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.
The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with

the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading, Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be : A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51603 51613	経済英語 I ・ II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	W. Mansell
他の科目 との関連						他学科 履修可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading, Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be : A+ A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51604 51614	経済英語 I ・ II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	F. Muncada
他の科目 との関連						他学科 履修可

【講義内容】 The class offers opportunity to learn basic Economic topics using English texts. The emphasis is on reading and writing practice. Speaking opportunity depends on the class size.

【講義計画】 First, everybody reads the English text. After reading, difficult words and key concepts are explained in English. Students then try to use selected phrases or words in a sentence or two. Students also write themes on different subject matters.

【評価方法】 Assessment is based on class participation, assignments, quizzes and reports.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51605	経済英語 I	選必	秋学期	2	2～4	D. Potter
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 Economics English

【講義内容】 This class will provide students with an understanding of English as it is used in Economics. It will provide students the opportunity to practice spoken and written English skills through daily reading and discussion of topics related to the economies of Japan and the world.

【講義計画】 Topics include :
the development of capitalism
the varieties of capitalism
international trade
the Euro
multinational corporations
issues of the Japanese economy
Japan' s foreign aid
the Asian economic crisis

【評価方法】 Student assessment will be based on daily attendance, discussion, quizzes, and in-class oral Presentations.

【テキスト】 吉本・渡辺著、「The Economist の記事で学ぶ国際経済と英語」1998；その他。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51621 51631	ビジネス英語 I ・ II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	P. Tanner
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one business English I & II.

【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading, Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be : A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51622 51632	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	K. Easley
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 BUSINESS ENGLISH

【講義内容】 The course will cover English communication skills in business situations. The focus will be on speaking and listening practice : information exchange, making contact, meetings, business socialising, describing trends, etc.

【テキスト】 Business Objectives (Oxford University Press. New edition)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51623 51633	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	W. Mansell
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business EnglishⅠ&Ⅱ.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading, Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be : A+, A, B, C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press,1992)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51624 51634	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	松 井 清 治
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 企業のグローバル化が益々進んでいる今日、日本人にとって国際的に通用する重要な能力の一つとして、語学力が挙げられる。特に英語は、国際的な情報ネットワークの発達によって、一段と世界の標準語になっている。言語は思考・行動様式・価値感など文化の特性を反映していると言われるが、特にビジネス英語の修得には、英語の知識だけでなく国際取引上の専門用語や背景にあるビジネス慣行などを理解することが必要となる。また、外国との時差に関係なく使えるコミュニケーションの手段として、ファクシミリや電子メールが普及したことにより、書くことの必要性が高まっている。

そこで本講座では、国際貿易実務の基礎知識と専門用語を学習しながら、英文ビジネス・レターの書き方を中心としたビジネス英語を修得する。

- 【講義計画】 春学期：Letters on Business Situations
貿易取引の流れに従って、貿易通信文を中心にその書き方を学習する。
秋学期：Letters on Social Situations
ビジネスに伴う出張・訪問の手配、招待状、各種の礼状や挨拶状などの書き方。
なお、貿易実務や国際取引の実際については、35年間の国際ビジネス経験をベースに、具体的事例を挙げて講義する。また、実際に使われたビジネス・レターや文書なども教材にする。
- 【評価方法】 授業への参加度、中間小テストおよび期末試験の成績による。
- 【テキスト】 “BUSINESS LETTERS FOR ALL” Oxford Univ. Press, 1998 25th impression

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51625	ビジネス英語 I	選必	秋学期	2	2～4	D. Potter
他の科目との関連						他学科履修 可

- 【副 題】 Business English
- 【講義内容】 The class will provide students with a basic understanding of international business culture and will give students a chance to practice English as used in business situations.
This is an activity-based course. Active participation is required form all students.
- 【講義計画】 Topics include
Negotiating contracts
Business presentations
Resumé writing
Business letters
Informal business interactions
- 【評価方法】 Student assessment will be based on daily attendance, discussion, in-class oral presentations, written resumés and business letters.
- 【テキスト】 研究のテーマに応じて選ぶこととする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51641 51651	時事英語 I・II	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	森 川 信 子
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【講義内容】 外国語を学ぶことは、そのことばを使う人々の文化や価値観を知ることであり、それは自国の文化や現状についてより多角的な視点をもって考え直すことにつながる。本科目では、英語で書かれた新聞・雑誌に親しみ、これらを情報源のひとつとして利用できるようになることを目標に、英文記事を読み、語彙・語句の充実、英文読解力の向上を図る。
- 【講義計画】 春学期は、新聞の構成・表現法などの基礎的な知識を整理してから、ニュース、文化、ビジネス、社説など各種の記事を読む。秋学期は、エコノミスト、タイム、ニューズウィークなどの雑誌から、日本関連の記事を中心に取り上げる。全体を通して、構文・語彙・語句の確認を行ない、英語力の充実を図る。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51661 51663	外書講読（理論と情報）A・B	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	野村 信廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 経済のカレント・トピックスを理解するのに役立つ統計の利用方法

【講義内容】 テキストや資料（随時指示）を輪読し、議論する。

【講義計画】 各自が担当部分を読み、紹介、解説、議論する。

【評価方法】 読解・説明の仕方、期末の筆記テストと出席状況を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】 W. Stansbury Carnes and Stephen D. Slifer, The Atlas of Economic Indicators, Harper Business

【そ の 他】 無し

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51662 51664	外書講読（理論と情報）A・B	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	藪内 繁己
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 英語で学ぶミクロ経済学

【講義内容】 英語で書かれたやさしいミクロ経済学のテキストを輪読するとともに、必要に応じその内容を解説する。

【講義計画】 講義計画は概略次のとおりである。

1. 経済学の分析用具
2. 需要曲線
3. 供給曲線
4. 市場均衡
5. 需給分析の応用

【評価方法】 授業における平常点と期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】 Lipsey-Chrystal, Positive Economics, Oxford U. P., 1995. (プリントを用意する)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51665 51667	外書講読（政策）A・B	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	水谷 重秋
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 環境経済学

【講義内容】 [春学期] 環境と経済学、経済成長と環境、環境問題の要素、望ましい環境：最適性が維持可能性か、環境の評価、環境管理の選択、環境政策への不確実な道、

[秋学期] 大気汚染と酸性雨、カントリーサイドの経済学、熱帯雨林の最前線、気候変動、環境経済学の将来

【講義計画】 予習を前提として、毎回、全員に発表させる。

【評価方法】 授業中の発表態度と期末の筆記試験とを合わせて評価する。

【テキスト】 Hodge, I., Environmental Economics: Individual Incentives and Public Choices, Macmillan, 1995.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51666 51668	外書講読（政策）A・B	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	大谷津 晴夫
他の科目 との関連	社会保障論A・B、労働経済学Ⅰ・Ⅱ					他学科 履 修 不可

【副 題】 高齢労働者の労働市場——日米比較——

【講義内容】 OECDのSocial Policy Studiesの中のThe Labour Market and Older Workersをテキストにして、日米の高齢労働者の労働市場を展望する。
春学期のAでは、上記テキストの第6章（日本）を、秋学期のBでは、第10章（米国）を輪読する。

【評価方法】 出席、予習、定期試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは当方で用意する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51675 51677	外書講読（歴史と思想）A・B	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	櫻井 健吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 次の書物を毎週でいねいに読んでいく。
Rondo Cameron, A Concise Economic History of the World, 3rd ed., Oxford University Press 1977.
春学期： 12. The Growth of the World Economy, pp.296-323.
秋学期： 13. Overview of the World Economy in the 20th century, pp.324-345.

【評価方法】 出席、小テスト、レポート

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51691 51693	理論経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	井上 知子
他の科目 との関連	「ミクロ経済学」および「経済学のための数学」の単位既得が望ましい。					他学科 履 修 可

【副 題】 中級程度の経済理論を習得する

【講義内容】 講義計画の(1)において、経済理論の説明に利用される若干の数学的用語の解説を行う。この講義では、数学的記述を重視し、中級程度の経済理論の修得を目標とする。

【講義計画】 授業は基本的に下記のテキストに沿って進める（進み具合により、(9)を省略する可能性あり）。
(1)基礎概念と分析方法
(2)消費者行動（双対性アプローチ、スルツキー方程式の導出を含む）
(3)企業行動（生産集合の概念の説明）
(4)競争経済の均衡
(5)経済厚生

- (6)不完全競争
 (7)公共経済
 (8)不確実性
 (9)投入産出分析
 4回に1度くらいの割合で、講義時間の最後に、理解度調査を兼ねた小テストを行う。

【評価方法】 小テスト及び2回の定期試験によって評価する。

【テキスト】 武隈慎一「ミクロ経済学」新世社

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51701 51703	データ解析Ⅰ・Ⅱ	選	夏期集中	各2	3・4	野 崎 浩 成
他の科目 との関連	「データ処理入門」の後続科目					他学科 履 修 可

【講義内容】 経済学研究を行うために必要となる「データ解析法」の基礎を学ぶ。理論編では、統計的方法を講義形式で学習する。また、実習編では、コンピュータを用いて、データ解析の基礎を演習形式で学ぶ。

【講義計画】 [理論編]

- (1) 尺度水準
- (2) 記述統計量
- (3) 検定による仮説の検証
- (4) 多変量解析

[実習編]

SPSSやSASなどの統計パッケージやExcelなどの表計算ソフトを用いる。また、理論編で学んだ知識を活用して、データ解析の演習を行う。

【評価方法】 出席およびレポート課題に基づいて、総合的に評価する。

【テキスト】 参考となる文献は、授業中に紹介する。プリント等を配布し、それに基づいて、授業を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51711	特別テーマ講義（理論と情報）A	選	春学期	2	3・4	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 社会的ジレンマの経済分析

【講義内容】 一人一人の個人の合理的行動の結果として、社会全体として誰も望んでいないような結果を招いてしまっている、という状況は経済・社会の様々な場面で見られる。こうした社会的ジレンマ状況を議論するための経済分析の理論を紹介する。

【講義計画】

1. 社会的ジレンマとは何か
2. 互恵的利他主義
3. 公共財と社会的ジレンマ
4. 二次的ジレンマ
5. 集団間競争

【評価方法】 試験の成績で評価する。

【テキスト】 特に定めない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51713	特別テーマ講義（理論と情報）B	選	春学期	2	3・4	上 田 薫
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 社会的行動の経済分析

【講義内容】 通常の経済的利益や経済行動よりも広い意味での社会性を持つ行動や問題に関して、経済学がどのような分析を試みているかを、幾つかのトピックに関して紹介していく。

【講義計画】

1. 消費の社会性
2. 社会的地位
3. メディアと一人勝ち社会
4. 差別と偏見
5. 利他的行動の経済分析

【評価方法】 試験の成績で評価する。

【テキスト】 特に定めない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51715 51717	経済政策論Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	水 谷 重 秋
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 経済政策論の基礎、資源配分と効率、分配の公平と福祉、成長と安定、外部効果と公共財

【講義計画】 順次、講義内容に示した項目を説明すると同時に、毎回の講義の中で、そのときどきの経済問題を解説する。できれば毎回、小テストを実施したり、質問表を提出させたりする。

【評価方法】 適宜実施する小テストと期末の筆記試験とを合わせて評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使わない。参考文献は講義の中で紹介してゆく。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51725 51727	日本経済論A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	花 井 敏
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 日本経済のミクロ的側面とマクロ的側面の分析

【講義内容】 日本経済論Aでは、日本経済のミクロ的な諸問題を取り上げ、経済学のアプローチによってそれらがいかん分析されるかを詳述する。
日本経済論Bでは、日本経済のマクロ的側面を取り上げ、日本経済の発展、成長、景気循環、財政、対外収支の問題などを議論する。

【講義計画】 春学期： 1. 違法駐車は減らすべきか？ 2. 入学試験は何のため？ 3. “協調の失敗”のメカニズム 4. 当たる予測は外れる!? 5. 差別価格の考え方 6. 子育ての「機会費用」の上昇 7. 食料と農業の考え方 8. リサイクルは環境に優しいか？

秋学期： 1. 日本経済の発展過程 2. 日本経済の成長と循環 3. 消費と貯蓄 4. 投資のダイナミ

ズム 5. 日本的雇用制度のゆくえ 6. 財政をめぐる諸問題 7. 日本経済の対外的側面

【評価方法】 春学期、秋学期ともに期末試験の得点によって評価。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51731 51733	財政学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	石 田 昌 夫
他の科目 との関連	経済学関係科目					他学科 履 修 可

【副 題】 政府行動の経済分析

【講義内容】 政府の行動を、経済面から考えるのが財政学である。この授業は財政学を初めて学ぶ人を対象に、基本的に必要と考えられる内容を丁寧に分かりやすく説明しようとするものである。経済学の基礎を学んでいれば授業の理解の助けにはなるが、この授業では何らかの予備知識を求めることのない形で進めたい。

政府の行動を直接の対象とすることから、財政学は公務員試験の必修科目となっているが、その内容は、政府の支出面（国のお金を何に使うか）、収入面（必要な財源をどうするか）、および財政政策（民間部門でなく、政府にしかできないことは何か、それをどう実行するか）に分けられる。この3つの分野の要点を順次、簡明に説明していく。

授業の全体を通して、日常の経済問題のポイントを自分自身で判断できるための基礎的素材を提供したい。

【講義計画】

1. 政府の存在理由
2. 政府の活動範囲
3. 市場の機能と市場の失敗
4. 大きな政府と小さな政府
5. 日本の予算制度
6. 所得税
7. 消費税
8. 赤字財政の諸問題
9. 社会保障

【評価方法】 期末試験の結果を中心に、出席状況を若干加味する。

【テキスト】 指定しない。参考書はトピックスに応じて適宜指摘する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51735 51737	金融論Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	荒 井 好 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 「金融」とは何だろう。いま試みに、「金融とは、国内・国際を問わず、おカネの動きにかかわる経済活動である」と考えてみれば、私たちの毎日の生活は、「金融」なくしては成り立たないことは自明であるといつてよい。私たちが日々接する経済情報の中でとりわけ「金融」に関する情報が多いのも当然であろう。しかしながら、断片的な経済情報をただ漫然と眺めているだけでは、「金融」が、国民所得、雇用、金利、国際収支といったその他の重要な経済変数と、どこでどのようにかわり合っているかを理解することはできない。金融とその他の経済活動との関係を捉えるためには、「理論」という道具がある。すなわち、理論という道具を使って、金融現象が他の経済活動とどのように絡み合っているのかを明らかにしようとするのが金融論である。したがって、ミクロ・マクロ経済学の基礎知識を前提とする。

金融の分野では、実際の金融制度や金融市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが、この講義では、そうした実際の知識と理論の提携をはかりながら、現実の金融諸問題について理解を深めることを目的としている。

【講義計画】 金融論Ⅰでは、経済活動と金融システムの関わりを概説する。金融とは何か（イントロダクション）、経

済成長と金融資産の蓄積、金融機関、等について概説した後、カレント・トピックスとして、日本版ビッグ・バン、銀行の不良債権問題、アジアの通貨危機、ヨーロッパ通貨統合問題などをとりあげ、金融と経済活動との関係を解説する。

金融論Ⅱでは、理論という道具の修得をめざす。家計・企業・金融機関・中央銀行それぞれの金融行動を明示し、マクロ経済における相互の依存関係を考える。

【評価方法】 適宜おこなうレポート提出および定期試験の結果を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 未定。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51741 51743	労働経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	村松 久良光
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 日本の雇用、賃金、労働組合の仕組みとその機能について、普通に言われていることと、小池和男氏の「知的熟練仮説」を対比しながら、技能形成を軸とした労働市場の見方を講義する。

【講義計画】 基本的には下記のテキストにそって説明し、統計資料や事例を示す。

春学期の「労働経済学Ⅰ」：

序説：さまざまな労働者グループ

1：知的熟練

2：大企業労働者のキャリア

3：大卒ホワイトカラーの人材開発

4：報酬pay一年功賃金か

秋学期の「労働経済学Ⅱ」：

5：長期雇用と解雇

6：現代の理論

7：中小企業労働者

8：女性労働者

9：高年労働者

10：日本方式の海外通用性

11：働く場での労働組合

【評価方法】 授業への参加熱心度、筆記の定期試験の成績。

【テキスト】 ・小池和男『仕事の経済学第2版』（東洋経済新報社、1999）。

・テキストは必ず持参すること。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51755 51757	社会保障論A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	大谷津 晴夫
他の科目 との関連	財政学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障法、労働法Ⅰ・Ⅱ					他学科 履 修 可

【講義内容】 春学期の社会保障論Aでは、社会保障の一般論として、社会保障の理念、方法論、成立の歴史を中心に講義する。

秋学期の社会保障論Bでは、社会保障の個別の制度を取り上げる。医療、年金、介護を中心に制度の概要や財政の仕組みを講義する。社会保障論Bでは、特に人口高齢化の下での社会保障制度の直面する問題に焦点をあてる。

【評価方法】 定期試験の成績を中心に評価するが、講義の中で課す小論文テストも成績評価の参考材料に加える。

【テキスト】 特定のテキストは指定せず、参考となる文献を講義の中で挙げていく予定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51765 51767	国際経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	山田 正次
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 モノやサービスの輸出入、外国との資金の貸借等、国境を越える種々の経済取引を対象として、それらに固有な原因や仕組み、そしてそれらの経済効果を明らかにし、そうした国際経済取引への政府の介入についても講述する。

【講義計画】 国際貿易、貿易政策、そして国際資本移動を主要テーマとして取り上げ、以下の各章の前半を「国際経済学Ⅰ」、後半を「国際経済学Ⅱ」として、現実の経済にも触れながら講義をする。

1. 比較優位の原理
2. 比較優位と生産要素
3. 貿易利益と交易条件
4. 保護貿易政策
5. 国際資本移動
6. 国民所得と経常収支

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 使用せず。適宜、必要な文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51771 51773	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	林 尚志
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 南北問題とアジアの開発戦略

【講義内容】 第二次大戦以降、“南”と呼ばれる開発途上国は“北”の先進工業国に対して数々の要求を行いながら、自ら工業化を中心とする開発戦略を進めてきた。
本講義では、これらの流れを概観しながら南が直面してきた経済・社会問題を確認し、それらの解決に向けた開発戦略のあり方を考察する。とりわけ、近年めざましい成長を遂げながら深刻な経済危機を経験した東アジア諸国の例から学ぶべき諸点を探っていきたい。

【講義計画】 序章 南北問題と開発経済学
* 南北問題の解決に向け、開発経済学が取り組むべき課題は？
Ⅰ章 南北問題の展開
* 60年代以降、南北問題はどのような展開を見せた？
Ⅱ章 工業化戦略の持つ意味
* なぜ、南の国々は「工業化への夢」を追い求めてきたのか？
Ⅲ章 初期工業化戦略とその挫折
* 初期工業化戦略は、どのように挫折したのか？
Ⅳ章 「東アジアの奇跡」を超えて
* 「東アジアの奇跡」は、どのようにして生まれ、どのような挫折を経験した？また、より有効な開発戦略を探る上での今後の課題とは？

【評価方法】 定期試験、および小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 テキストは定めないが、以下を参考文献とする予定。
(1) 渡辺利夫著、『アジア経済をどう捉えるか』NHKブックス、1989年。
(2) 下村恭民・西垣 昭著、『開発援助の経済学』[新版] 有斐閣、1997年。
(3) 大野健一著、『市場移行戦略』有斐閣、1996年。
(4) アジア経済研究所他編、『テキストブック開発経済学』有斐閣、1997年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51781	国際経済政策論Ⅰ	選	秋学期	2	3・4	D. Potter
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 戦後50年にかけて世界経済が現在の世界経済に影響を受けていない国がないほど発展して成長してきた。その後この事が国と国民との間に利益が生じるか生じないか、また各国が平等に利益を受けているのかなどが議論になっている。

この講義では、国政府と市場の関係そして、世界経済に対しての国政府の政策を中心とする国際経済政策を紹介する。

【講義計画】 主なテーマ
 国際経済政策の定義、アプローチ
 戦後世界経済の発展
 国際貿易
 国際通貨制度
 多国籍会社と国家
 政府開発援助
 地域経済総合
 アジアの経済開発政策

【評価方法】 出席と書平と報告の結果を総合して評価する。

【テキスト】 研究テーマに応じて適時選ぶこととする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51785	アジア経済論Ⅰ	選	春学期	2	3・4	足立 文彦
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 アジアの政治・経済・社会

【講義内容】 アジアと日本の経済関係を中心に、その背後にある、政治、経済、社会、歴史、文化などの要因を考察する。

【講義計画】 詳細は未定であるが、以下のようなトピックを予定している。

- 方法中心的アプローチと問題中心的アプローチ
- 経済開発と人間開発
- 経済発展と構造転換
- 援助・貿易・投資：三位一体の経済協力
- 国際経済摩擦への段階論的アプローチ
- 中小企業の海外進出
- 産業空洞化論を超えて
- 通貨・金融危機とその後のアジア経済

【評価方法】 適宜出席をとり、簡単なレポートを課す。

【テキスト】 そのつどプリントを配布し参考文献を指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51791	アメリカ経済論Ⅰ	選	夏期集中	2	3・4	辻 正 次
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 アメリカ経済の仕組み

【講義内容】 アメリカ経済の特徴を日本経済との比較から明らかにする。アメリカ経済は市場取引が原則であり、短期的かつ競争的なシステムが確立されている。しかしながら、70年代の石油ショック以降、その国際競争力は著しく低下した。その原因を、日本の経済システムと比較しながら解説する。その際、情報の経済学など最近の理論的成果をも取り入れる。

【講義計画】

1. 石油ショックと生産性の低下
2. レーガノミックスの功罪
3. 米国の雇用システム
4. 米国の企業システム
5. 80年代の米国のマクロ経済

【評価方法】 試験による

【テキスト】 辻 正次『エコノミックス・イン・アクション』日本評論社、1997年
辻・西脇『ネットワーク未来』日本評論社、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51793	アメリカ経済論Ⅱ	選	夏期集中	2	3・4	辻 正 次
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 アメリカ経済の再生

【講義内容】 1990年代中頃から成長率や失業率などみた米国経済のパフォーマンスの改善は著しい。このような状況は米国が新しい経済段階に入ったという「ニューエコノミー論」の根拠となっている。さらに、経済の情報化の観点から、米国の経済の構造変化を概観し、米国経済システムが「ネットワークの経済性」と合致するものであることを明らかにする。

【講義計画】

1. 構造変化からみた米国経済
2. 経済の情報化とネットワークの経済性
3. 米国生産性の回復の
4. 事例分析1：米国自動車産業の復活
5. 事例分析2：ベンチャー・ビジネス

【評価方法】 試験による

【テキスト】 辻 正次『エコノミックス・イン・アクション』日本評論社、1997年
辻・西脇『ネットワーク未来』日本評論社、1997年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者		
51795	特別テーマ講義（国際）A	選	秋学期	2	3・4	吉 本 佳 生		
他の科目との関連						他学科履修	可	

【副 題】 高等数学の知らない金融工学入門。

【講義内容】 外国為替レートについての通貨オプション取引を中心に、デリバティブやポートフォリオ理論について、高等数学を使わずに、基本から応用まで講義します。

【講義計画】

1. 株価の予測とコンピューター
2. ポートフォリオ理論
3. 預金や年金のリスク
4. オプションのしくみ
5. オプション価格の計算
6. 先物とスワップ
7. ヘッジ・ファンドの収益率
8. 外貨運用
9. 貿易と通貨オプション

【評価方法】 期末試験のみで評価します。出席はとりません。

【テキスト】 吉本佳生著『金融工学の悪魔』（日本評論社、1999年、1500円＋税）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者		
51797	特別テーマ講義（国際）B	選	秋学期	2	3・4	吉 本 佳 生		
他の科目との関連						他学科履修	可	

【副 題】 The Economistの記事を読んで、国際金融のトピックスを学びましょう。

【講義内容】 ロンドンで発行されているThe Economist（英文雑誌）の記事を使って、国際的な金融問題について講義します。

【講義計画】

1. アメリカの金融政策
2. 日本の金融政策
3. EMU
4. アルゼンチンのドル化
5. 株式市場のバブル
6. 為替レートの予測
7. 銀行の合併
8. IMFの役割
9. デリバティブ
10. ヘッジ・ファンド

【評価方法】 期末試験のみで評価します。出席はとりません。

【テキスト】 吉本佳生・渡辺智恵著『The Economistの記事で学ぶ「金融」と「英語」』（日本評論社、2000年夏発行予定、予定価格2000円＋税）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51801	西洋経済史A	選	秋学期	2	3・4	櫻井 健吾
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 都市史を中心とした西洋経済史

【講義内容】 第1章 なぜ都市史を学ぶのか
 第2章 前提としてのヨーロッパ中世都市
 第3章 産業化時代の都市：産業化と都市化
 第4章 都市の生活形態
 1) 都市の家族、2) 都市の労働形態
 第5章 中心地論：都市網、都市の分布、都市等級
 第6章 都市の空間構造：都市核と郊外化
 第7章 大都市の人的側面：「大都市批判」をめぐって

【評価方法】 筆記テストと出欠

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51811	経済思想史 I	選	春学期	2	3・4	橋本 昭一
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 17世紀～20世紀のイギリスを中心とした経済思想史概説

【講義内容】 「近代」という時代の意味を、絶対王政がヨーロッパに確立する時代以降の経済思想を概観する中で考えてみたい。現在、新しい資本主義の内実がいろいろの形容詞を用いて説明されているが、それぞれの経済思想はそれぞれの時代の最先端にあって時代の課題を解決する案を提出し、それを説得するために独特の理論を提供し、それを補強するために独自の歴史観を内に含んでいた。ロックやヒュームといった社会思想史上の人物もまたその関連では経済問題に関して、とりわけ所有権問題に関して重要な発言をし、大きな影響力を与え、イギリス絶対王政のあり方に変更を求めた。彼らの理論は経済学を独立の学問としたアダム・スミスにも影響を与えている。同様にマルサスやリカードやJ.S. ミルの理論も同時代の哲学思想から影響を受けているとともに、同時代の経済・政治状況に大きな影響を与えている。現実の資本主義が理論に影響を与えるとともに、新しい理論が資本主義の枠組みを変更してゆくという微妙な関係を、マーシャルやケインズさらにはハイエクといった人物に至るまで分かりやすく平易に語ることを目的とする。

【講義計画】 第1回 人間と経済と経済思想
 第2回 所有権思想の歴史
 第3回 重商主義
 第4回 重商主義主義批判の思想
 第5回 アダム・スミスの経済思想
 第6回 古典派経済学の展開
 第7回 古典派批判の思想
 第8回 社会主義（マルクス）の経済思想
 第9回 近代経済学の成立と限界革命
 第10回 メンガーとジェヴォンズ
 第11回 マーシャル経済学
 第12回 ケインズ革命
 第13回 ケインズ批判の経済思想
 第14回 ハイエクと新自由主義
 第15回 現代資本主義の諸問題

【評価方法】 期末試験（広く浅く講義の理解度を問う）

【テキスト】 早坂 忠編『近代経済学の形成と展開』昭和堂

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51813	経済思想史Ⅱ	選	夏期集中	2	3・4	原 田 哲 史
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 19世紀ドイツの経済思想

【講義内容】 個人による利潤極大化が動因となって近代的な経済が成り立っていることは否定できないのですが、連帯感に基礎を置いた、物質的な利益にとらわれない社会・経済関係もあるのではないか、と誰もが考えるものです。この問題は、経済思想の歴史をさかのぼれば、「利己心」から出発して社会心理学と経済学を構想したアダム・スミス（1723～90年）と、それを「共同体」主義の観点から批判したドイツの経済思想家アダム・ミュラー（1779～1829年）との相違・対比において、すでに見ることができます。この授業では、ミュラーのロマン主義経済思想を含めて、19世紀ドイツ経済学の流れを、18・9世紀転換期のスミス経済思想の流入から、19世紀後半の労働者問題への取り組みまで、たどってみたいと思います。

【講義計画】

第1回	スミスの自由主義経済思想	第11回	新歴史学派
第2回	神聖ローマ帝国の発展	第12回	国家社会主義
第3回	スミス『国富論』のドイツでの普及	第13回	マルクスの社会主義
第4回	プロイセン改革からドイツ帝国成立まで	第14回	ケタラーのキリスト教社会論
第5回	ミュラーのロマン主義経済思想	第15回	試験
第6回	リストのナショナリズム経済思想		
第7回	現代的経済分析（限界理論）の最初の試み		
第8回	19世紀前半のドイツの知的状況		
第9回	旧歴史学派		
第10回	ドイツ帝国の構造と発展		

【評価方法】 最後の授業で実施する試験によって評価します。

【テキスト】 T.リハ（原田他訳）『ドイツ政治経済学——もうひとつの経済学の歴史——』ミネルヴァ書房

【そ の 他】 ヨーロッパ（ドイツ）史をよく知らない人でも分かるように、歴史の基礎知識についても、そのつど説明します。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51815 51817	経済倫理学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 夏期集中	各2	3・4	橋 本 昭 一
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 21世紀社会の経済倫理を考える

【講義内容】 「近代の終焉」という言葉が聞かれるようになってからでもかなりたつ。そこで「近代」とはどのような時代であったのか、いかなる問題を解決し、いかなる問題を未解決として21世紀に残したのかを、一緒に考えてゆきたい。

こんな問題を取り上げて欲しいという希望があれば、第1回目の講義終了時（1回目の講義は早めに終了する）に具体的に提案して欲しい。担当者の守備範囲にある問題、あるいは担当者が準備可能な問題であれば積極的にとりあげてゆく。（準備が必要なものは夏期集中講義中に扱う）

とりあえずは、「人間と経済と倫理」といった総論の問題に関する担当者の見解を3回ほど話し、その後、環境保全の問題、高齢化（少子化）社会の問題、開発独裁と国際援助の理論など、アップツーデイトな問題をいくつかとりあげてゆく予定である。

【講義計画】

第1講	人間生活と経済生活
第2講	私有制と公有制
第3講	利潤と効用・自由と公正
第4講	19世紀の資本主義と20世紀の資本主義
第5講	経済発展と環境破壊
第6講	経済成長と資源問題

第7講以後 受講生と相談の上高齢化社会問題等を取り上げてゆく。

【評価方法】 期末試験（広く浅く講義の理解度を問う）

【テキスト】 とくに定めずその都度参考文献を示す。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51825 51827	経済学史Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	中 矢 俊 博
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 経済学の歩み＝誰にでもわかる経済学史入門

【講義内容】 私達が学んでいる経済学を歴史を通じて理解していこうと思います。その際に、出来るだけやさしく、どんな人にもわかってもらうように講じる予定です。

【講義計画】 以下のように講じていきます。

第1講 経済学史の範囲と方法（その1）

1. 経済学史の研究方法
2. 経済学史研究の意義
3. 経済学の名著「13選」（中矢先生推薦）

第2講 経済学史研究の範囲と方法（その2）

4. パラダイム
5. 限界分析の登場

第3講 経済学前史——古代・中世の経済学——

1. 古代ギリシアの経済思想
2. 中世ヨーロッパの経済思想

第4講 経済学の夜明け——重商主義の経済学（その1）——

1. トーマス・マン
2. ウイリアム・ペティ
3. ジョン・ロック

第5講 経済学の夜明け——重商主義の経済学（その2）——

4. チャールズ・ダヴェナント
5. ジョン・ロー
6. デイヴィッド・ヒューム
7. ジェイムズ・スチュアート

第6講 経済学の完成——古典派経済学（その1）——

1. アダム・スミス

第7講 ビデオ鑑賞
ガルブレイス『不確実性の時代』

第1章 予言たち、および古典的資本主義の約束（前半部分）

第8講 経済学の完成——古典派経済学（その2）——

2. トマス・ロバート・マルサス

第9講 経済学の完成——古典派経済学（その3）——

3. デイヴィッド・リカードウ

第10講 ビデオ鑑賞
ガルブレイス『不確実性の時代』

第1章 予言者たち、および古典的資本主義の約束（後半部分）

第11講 経済学史Ⅰのまとめ [問題形式]

第12講 限界革命の経済学（その1）

1. ジェヴォンズの経済学

第13講 限界革命の経済学（その2）

2. メンガーの経済学

第14講 限界革命の経済学（その3）

3. ワルラスの経済学

第15講 新古典派の経済学（その1）

1. マーシャルの経済学

第16講 新古典派の経済学（その2）

2. ビグーの経済学

第17講 ケインズの経済学（その1）

1. ケインズの生涯

- 第18講 ビデオ鑑賞
BBC制作『消費と繁栄——ケインズの肖像』（前半部分）
第19講 ケインズの経済学（その2）
2. ケインズの経済思想
第20講 ケインズの経済学（その3）
3. ケインズの経済理論——
第21講 ケインズの経済学（その4）
4. ケインズ経済学の現代的意義——
第22講 ビデオ鑑賞
BBC制作『消費と繁栄——ケインズの肖像』（後半部分）
第23講 現代の経済学
第24講 経済学史Ⅱのまとめ（問題形式）

【評価方法】 講義に出席することはもちろんですが、半期に数回提出してもらうレポートや定期試験の成績などを総合して評価します。

【テキスト】 ブローグ著・中矢訳『ケインズ以前の100大経済学者』（同文館）
このテキストは『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館）の姉妹書です。各自で用意しておいて下さい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51841 51845	民法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	2～4	松倉 耕作
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 民法は日常生活に最も密接な関連をもった法律である。民法を大別すると、財産法と家族法とに分けることができる。

財産法の例をいえば、将来マンションを購入する場合に、銀行から借金をし、担保（抵当権）を設定するでしょう。このような場合の法律関係を扱います。その他に、交通事故や借地借家の問題も民法の対象となります。

他方、家族法の例としては、離婚や親子関係、さらには相続などがこれに含まれます。家族法については、プリントを配布します（無料）。

【評価方法】 原則として、春学期秋学期のテストを平均するが、いずれかが優れていれば合格する場合もある。

【テキスト】 嵯峨野書院『資料でみる財産法』

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51851 51855	商法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	田中 裕明
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 本講義では、商法全般について講述する。総論として、商法を企業法としてとらえる立場から、商法にはどのような特色が認められるか、特に民法との相違はどのようなものであるかを、まず明らかにする。次いで以下の項目について講述する商法Ⅰでは、企業組織と企業証券を、商法Ⅱでは、企業活動と企業運営を対象とする。

【講義計画】 商法Ⅰ 1 企業組織
商人概念と会社概念
商法Ⅰ 2 企業証券
手形の仕組み
商法Ⅱ 3 企業活動と企業運営
株式会社の特色、株式制度、株式会社の機関

講義には必ず最新版の「六法」を持参すること。

【評価方法】 春学期・秋学期の定期試験の成績で行う。

【テキスト】 商法Ⅰ：西尾幸夫・国友順市・武久征治編著『商法Ⅰ』（嵯峨野書院）
商法Ⅱ：西尾幸夫・国友順市編著『商法Ⅱ』（嵯峨野書院）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51861 51865	経済法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	田 中 裕 明
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 経済法総論として、経済法とは何か、民・商法とはどのような関係に立つかについて言及し、経済法の位置付けを明らかにする。次に各論として独占禁止法を対象に、その三本柱とされる「私的独占の禁止」、「不当な取引制限の禁止」および「不公正な取引方法の禁止」について講述する。

【講義計画】

経済法Ⅰ	I. 総論 経済秩序と経済法	II. 各論—独占禁止法—
		1 独占禁止法の目的と基礎概念
経済法Ⅱ	2 私的独占の禁止 3 不当な取引制限の禁止 4 企業結合規制 5 不公正な取引方法の禁止 6 手続その他	

講義には必ず最新版の「六法」を持参すること。

【評価方法】 春学期・秋学期の定期試験の成績で行う。

【テキスト】 根岸哲・杉浦市郎編『経済法』（法律文化社）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51871 51875	労働法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	唐 津 博
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 法学部開講科目 81214「労働法」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51881 51885	行政法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	栗 本 雅 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 行政法は、憲法、民法、商法、刑法等と異なり、その基本となる法典が存在しない一方で、現在わが国で有効な1,500余の法律（国会制定法）の大半は、行政法に属する、といわれる。したがって、その内容は、バラエティーに富むが、講義の中核は、国・地方公共団体等の行政体に認められる“権力”の中身の究明とその行使方法の民主的統制の確立にある。地方行政にも関心を払い、かつできるだけ具体例の引用を心がけたい。

具体的講義内容は、下記の通りである。
〈総論〉

現代行政の特色、行政法の特色、行政法の基本原理、国と地方の行政組織、行政行為の諸問題、非権力的行政手法、行政強制、行政手続、行政救済
〈各論〉

地方自治法、公務員法、警察法、防衛法、教育法、衛生法、経済法、財政法、社会保障法、開発行政法、公害防止・環境保全法

【評価方法】 春学期試験（40点）＋秋学期試験（60点）＝100点満点とする。

【テキスト】 使用予定であるが、具体的には、開講前に指示する。
六法必携のこと（法解釈学における六法は、語学における辞書）。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51901	経済入門Ⅰ	必	春学期	2	2	上 田 薫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 51711「特別テーマ講義（理論と情報）A」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51902	経済入門Ⅰ	必	秋学期	2	2	吉 本 佳 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 51795「特別テーマ講義（国際）A」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51911	経済入門Ⅱ	必	春学期	2	2	上 田 薫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 51713「特別テーマ講義（理論と情報）B」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51912	経済入門Ⅱ	必	秋学期	2	2	吉 本 佳 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 51797「特別テーマ講義（国際）B」を参照。